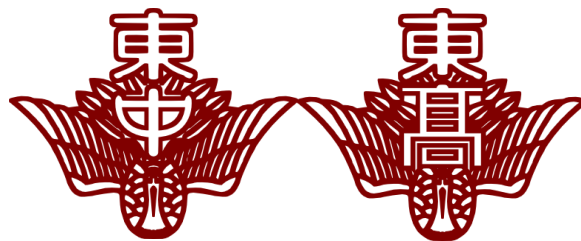


令和3年度 文部科学省指定

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）
コンソーシアム構築支援事業

研究開発実施報告書
（第1年次）



令和4年3月

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校

長崎県立長崎東高等学校

巻頭言

長崎県立長崎東中学校長
長崎県立長崎東高等学校長
鶴田 栄次

令和3年度（2021年度）は、新型コロナウイルス感染症の拡大の波が3度押し寄せ、高校生を含めた若年者の感染も大きく増加した1年でした。本校も分散登校やオンライン授業など、感染拡大を防止するために教育活動が大きく制限されました。WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（以下、「WWL」と言う。）の拠点校としても、本格的に活動を開始したい年度ではありましたが、海外へのフィールドワークが実施できない等の制約が多く、当初の計画通りに実施できない1年となってしまいました。

そういう状況の中でも、本校は『「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成』を目指し、様々な教育活動に取り組みました。総合的な探究の時間や学校設定科目であるIGR（Integrated Global Research）を中心に、各生徒はSDGsの視点から探究テーマを設定し、文献調査やフィールドワーク、実験などを行い、3月にWWL課題研究発表会として、全ての生徒が発表を行いました。高校1年と2年の発表テーマを見てみると、「代替魚粉としてのバッタの可能性を調べる」、「郷土長崎の伝統的保存食を活用したエチオピアの食品ロス問題の改善」など、年寄りの私など思いもつかないユニークなテーマがたくさんありました。多くの探究班が、この1年間で大学や企業やNPOの方々と接点を持ち、それぞれの学びを深めている様子でした。また、対外的な場面での発表も積極的に行い、「水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善」というテーマについての本校生徒の発表が、WWL全国高校生フォーラムで生徒投票賞（第1位）を受賞するなど、高い評価を得ることができました。

さらに、コロナ禍ならではの学びとして、オンラインでの交流も活発に行われていました。コロナ禍による海外渡航の制限がいつまで続くか分かりませんが、令和4年度（2022年度）も、生徒一人一人がパソコンを駆使して、海外や大学や企業とつながり、学びを拡げていってほしいと願っています。

結びとなりましたが、本事業へのご指導・ご助言を賜りました長崎県教育委員会並びにWWL運営指導委員会等、多くの関係の皆様にご心より感謝申し上げます。また、多大なるご支援・ご協力をいただいております長崎大学や長崎県立大学等の関係各位に、厚く感謝申し上げるとともに、本事業の連携校である長崎西高校、長崎南高校、大村高校、壱岐高校、対馬高校等の高校のご協力にも感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

第1章 研究開発の概要

(1) カリキュラム開発拠点校の概要	1
(2) 研究構想	1
①構想名 ②構想の概要 ③構想図 ④イノベーティブなグローバル人材像	
(3) アドバンスド・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク)	5

第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

(1) カリキュラム開発	8
①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)	
②時間割編成の工夫	
③探究ベーシック	
④中国語の開設 (2 単位)	
⑤高度な課題研究を実施するための基盤整備	
⑥その他：部活動における連携機関や連携校等との共同プロジェクト	
(2) 「総合的な探究の時間」における研究開発	1 9
①中学校の取組 ②高校1年生の取組 ③高校2年生の取組 ④高校3年生の取組	
(3) 事業協働機関・事業連携校との取り組み	4 1
①共同探究プログラム	
②教員研修	

第3章 高校生国際会議の計画

(1) 第1回WWL長崎フォーラム	4 6
(2) 組織図	4 8
(3) 他の拠点校等が開催する国際会議への参加	4 9

第4章 評価 (目標の進捗状況、成果・検証)

(1) 生徒の変容	5 2
(2) 教員の変容	6 6
(3) 学校評価	6 7
(4) 運営指導委員会・事業検証委員会	6 8
(5) 成果の普及	7 7
(6) アウトプット・アウトカム	7 8
(7) 次年度の課題・計画	8 3

参考資料：教育課程表 (中学、令和3年度入学生【普通科】【国際科】)

第1章 研究開発の概要

管理機関 長崎県教育委員会 （長崎県長崎市尾上町3-1）

代表者 教育長 平田 修三

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 （長崎県長崎市立山5-13-1）

校長 鶴田 栄次

（1）カリキュラム開発拠点校の概要

学級数・生徒定員

長崎県立長崎東中学校

学年	学級数	定員
中1	3	120
中2	3	120
中3	3	120

長崎県立長崎東高等学校

学年	学科	学級数	定員
高1	普通・国際	7	280
高2	普通	5	200
	国際	2	80
高3	普通	5	200
	国際	2	80

（2）研究構想

①構想名

「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成

②構想の概要

歴史や文化の重要なクロスロードに位置してきた長崎から、新たな価値を創出できるグローバル人材を育成する。「世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを」をテーマに、長崎の教育資源を活用し、予測困難な時代において複数の視点や学問分野を融合させて様々な社会課題に取り組む。また、ALネットワークの構築により拠点校等の生徒が定期的に大学を訪れ高度な学びに取り組むことが可能となるシステムの確立や、企業・NPO等との協働、長崎と歴史的にもつながりの深い中国、オランダ等でのフィールドワーク、WEB会議等を活用した離島や海外の学校との共同研究等を行う。成果の共有・普及を図るため、拠点校が九州のSGH指定校をリードする形で開催した「九州SGHフォーラム」（H30年度、R元年度）を発展させ、大学、企業、海外の教育機関等も参画する高校生国際会議を開催する。

③構想図



④イノベティブなグローバル人材像

2021年に開港450年を迎える長崎は、江戸時代唯一の貿易の窓口として海外に開かれ、新しい社会を創造する風土があった。また、1945年の原子爆弾による甚大な被害から復興し、世界平和を目指し発信を続ける使命がある。2019年11月にはローマ教皇が長崎を訪れ、「核兵器のない世界は実現可能である」と世界に訴えた。地理的に見ると、長崎県には全国最多である49の有人離島があり、中国や韓国とも近く交流も盛んである。一方、急速に人口減少が進んでいる離島は課題先進地とも言われ研究のフィールドとして注目されている。これらの背景を踏まえ、本事業では「世界の平和と共生」をテーマに、他と協働しながら困難や障壁を克服し世界に新しい価値を創出し発信できる人材を育成する。

本事業では、長崎を様々な文化・価値観・社会課題等が交わる「クロスロード」と捉え、日本と海外、文系と理系、都市部と遠隔地等の「協働・共創」をキーワードに、SGH（H27年度～R元年度）5年間の成果と課題を踏まえて設定した以下の資質・能力等を備えた人材の育成を目指す。

【平和で持続可能な社会の構築を担うイノベティブなグローバル人材像】

ア 育成したい資質・能力（コンピテンシー及び探究スキル）

- ①自ら発見・定義した課題に主体的に向き合い、解決に近づく力（課題発見・解決力）
- ②学んだことを活用し、新たな価値を創造する力（創造力）
- ③物事を多角的に捉えて、情報を選択・分析し適切に活用する力（情報分析・活用力）
- ④自分の考えや意見を効果的に表現・発信し、他者に影響を与える力（自己表現力）

イ 育成したい心構え・考え方・価値観等（マインドセット）

⑤多様な文化的背景を持つ人々と対話や議論を通じて協働する姿勢（協働性）

⑥学問に高い関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢（学ぶ意欲）

⑦世界平和を希求し、持続可能な社会の形成に貢献しようとする姿勢（地球市民性）

上記7つの資質・能力、マインドセットを「WWL7（セブン）」と称し、スクールポリシーにも取り入れている。WWL7と新学習指導要領における評価の3観点との相関は、以下のように図示される。

WWL7 新学習指導要領の3つの評価の柱との関連性



上記 WWL7 について生徒が自己評価できるよう、R2 年度にルーブリックを開発し、1～3 学期ごとに生徒の変容を測定している。変容の詳細は、第4章（評価）で記述する。

S 評価の「実現可能性」という文言については、運営指導委員から「実現可能性を重視するあまり、アイデアが縮小され創造力を伸ばせないことが考えられる」との意見を反映し、さらに改訂を図りたい。現行のルーブリックを次ページに記載する。

【WWL7 ルーブリック】(Version-R3) (※C評価とD評価は割愛)

	No	WWL 7	定義	評価項目		
				S (変革)	A (創造)	B (思考)
				『かえる・かわる』	『つくる』	『できる』
				習得した知識・技能を活用し、 <u>実現可能性のある新たな価値を創造</u> できる。	習得した知識・技能を活用し、 <u>新たな価値を創造</u> できる。	習得した知識・技能を活用し、 <u>思考</u> できる。
思考力・判断力・表現力	1	課題発見・解決力	主体的に課題に向き合い発見・解決する力	自らの力で諸事象に対して社会的・学問的意義のある課題を発見し、根拠をもとに、 <u>他分野との関連性があり実現可能性のある</u> 解決策を提示できる。	自らの力で諸事象に対して社会的・学問的意義のある課題を発見することができ、根拠をもとに、 <u>他分野との関連性がある</u> 解決策を提示できる。	教員の支援があれば、諸事象に対して <u>社会的・学問的意義のある課題</u> を発見することができ、 <u>根拠のある</u> 解決策を提示できる。
	2	創造力	学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら論理的に思考し、 <u>価値的で独自性があり実現可能性のある発想</u> ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら論理的に思考し、 <u>価値的で独自性のある発想</u> ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら <u>論理的に思考</u> できる。
	3	情報分析・活用力	物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	諸事象を多角的に捉え、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、それらを関連付けて <u>実現可能性のある自説の根拠として適切に活用</u> できる。	諸事象を多角的に捉えることができ、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、それらを関連付けて <u>自説の根拠として適切に活用</u> できる。	諸事象の因果関係が理解でき、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、それらを関連付けて <u>一つの結論を導き出す</u> ことができる。
	4	自己表現力	考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	他者の意見を読み解き、相手の立場を尊重した適切な表現で自らの考えや意見を発信し、他者の行動に <u>良い変容を起こす</u> ことができる。	他者の意見を読み解き、 <u>相手の立場を尊重した適切な</u> 表現で自らの考えや意見を発信し、他者の考え方に <u>良い変容を起こす</u> ことができる。	他者の意見を受け入れ、 <u>相手</u> が理解しやすいように <u>表現</u> を工夫し、自らの考えや意見を発信することができる。
学びに向かう力・人間性等	5	協働性	多様な人々と対話や議論を通じて協働する姿勢	協力の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために共に行動し、 <u>実現可能性のある解決策を提示</u> できる。	協力の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために、共に行動し、 <u>解決策を提示</u> できる。	協力の大切さを理解して、 <u>他者の意見を尊重しながら</u> 、共通の課題解決のために、共に行動することができる。
	6	学ぶ意欲	学問に関心をもち、自ら高度な学びに向かう姿勢	各教科・科目や探究学習等について真剣に学び、学校の履修内容以外に学問的素養の高い探究的な学びを <u>自ら</u> 行い、 <u>大学や外部機関とのネットワークを構築</u> している。	各教科・科目や探究学習等について真剣に学んでおり、学校で履修する学習以外に、 <u>学問的素養の高い探究的な学びを自ら</u> 行っている。	各教科・科目や探究学習等について学ぶ意欲があり、与えられた課題に取り組むことに加え、 <u>各教科について復習などの学習を自ら</u> 行っている。
	7	地球市民性	世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢	世界平和や持続可能社会について関心があり、それらを実現するために <u>継続して行動</u> しており、その普及に <u>努めている</u> 。	世界平和や持続可能社会について関心があり、それらの実現のために <u>継続して行動</u> している。	世界平和や持続可能社会について関心があり、それらの実現のために <u>機会があれば行動</u> している。

(3) アドバンスド・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク)

AL ネットワーク運営組織

管理機関である長崎県教育委員会(所管: 高校教育課)に AL ネットワーク運営組織を置き、県教育長を長とする。下のア～ウに挙げる拠点校・連携校の校長・実務責任者、協働機関の担当者をメンバーとして、AL ネットワークにおける計画等の作成、運営管理、情報収集・提供、目的の達成状況の評価・見直し等を行う。AL ネットワーク全体が、多様な分野や視点を融合させた高度な学びの機会を高校生に提供するため、各々の強みを生かした協働を行う。運営組織図は 7 ページに掲載する。

事業拠点校: 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校

併設型中高一貫校で、九州本土部の公立高校で唯一国際関係に関する学科を有し、平成 27 年度からスーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されている。九州のリーダー校として成果の共有と普及を目的とした「九州 SGH フォーラム」を開催し、多くの学校が参加する大規模な発表会の運営実績を有する。本事業では主に、連携校・協働機関と共に課題研究を実践し、文理の枠を超えたイノベーティブなグローバル人材育成を目指す教育課程の開発を行う。

事業連携校:

(ア) SSH 校: 長崎県立長崎西高等学校、長崎南高等学校、大村高等学校

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されている県立高校であり、本事業では拠点校と協働した文理融合型の人材育成や、探究型学習を推進する。具体的には、拠点校と合同で課題研究発表会を開催するとともに、高校生国際会議の企画・運営に参画する。

(イ) 中高一貫校: 長崎県立佐世保北中学校・高等学校、諫早高等学校・附属中学校

拠点校と同じく併設型中高一貫教育を行っており、国内外のトップ大学への進学等を目指した教員対象の研究会や生徒主体の研修会等を行う。特に中学校段階における探究型学習を協働して推進し、基盤となる課題設定力や情報収集・分析力等の早期の育成を目指す。

(ウ) 離島部の高校: 長崎県立対馬高等学校、壱岐高等学校

それぞれ韓国語を学ぶ学科や中国語と歴史学を学ぶコースが設置され、文科省「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」の調査研究校となっている。遠隔システムを活用し、東アジア地域とのつながりを生かした研究や、都市部と離島の異なる視点からグローバル課題に取り組む探究型学習を拠点校と共同で進める。

(エ) 県外の高校: 広島市立舟入高等学校、広島女学院中学高等学校、静岡県立三島北高等学校、立命館宇治中学校・高等学校

被爆地である広島市の 2 校とは、拠点校とのこれまでの交流実績を生かし、共同で平和フィールドワーク等を行う。また、三島北高校及び立命館宇治高校は、WWL コンソーシアム構築支援事業の指定を受けており、国際会議等への相互参加や海外フィールドワーク等において協働し、拠点校同士の連携による AL ネットワークの更なる活性化を目指す。

(オ) 海外の学校： **SMK Taman Tun Aminah** (マレーシア)、**Visser't Hooft Lyceum** (オランダ)、**Tamanawis Secondary School** (カナダ)

海外修学旅行や海外フィールドワーク等において、拠点校との共同研究、ディスカッションやフォーラムの開催、現地での合同フィールドワーク及びその事前・事後学習を行う。

事業協働機関：

(大 学) 長崎大学、長崎県立大学、長崎純心大学、大阪府立大学現代システム科学域

(企業等) ハウステンボス、ジャパネットホールディングス、十八親和銀行、長崎新聞社、協和機電工業、九州教具、株式会社イシマル、**JICA** 九州、長崎日蘭協会、**NPO 法人地域循環研究所**、**にこにこ一般財団法人**

高校生が多様で高度な学びに取り組むための環境整備に携わり、課題研究における専門的見地からの助言、国内外のフィールドワークへの支援、共同研究、意見交換等を行う。

その他の協力機関：

(大 学) 九州大学、大分大学、国際基督教大学、シンガポール国立大学、上海外国語大学 (中国)、釜山外国語大学校 (韓国)、ウィスコンシン州立大学・ミドルベリー国際大学院大学 (米国)、ライデン大学 (オランダ)

(その他) ベトナム国立衛生疫学研究所、**JICA** ベトナム、**WHO** (世界保健機関)、国連本部軍縮部 (米国)、ドイツ国際平和村

課題研究や国内外のフィールドワーク等における協働や支援、WEB 会議システムを活用した事前学習等への協力を行う。また、模擬国連や高校生国際会議の開催等に協力する。

【AL ネットワーク運営組織図】

管理機関（長崎県教育委員会）

AL ネットワーク事務局（高校教育課）

AL ネットワーク運営組織

委員会組織

区分	主な役割	海外連携校等
拠点校	長崎東中・高 イノベティブなグローバル人材育成研究に向けたカリキュラム開発	SMK Taman Tun Aminah Visser't Hooft Lyceum Tamanawis Secondary School
連携校	SSH 校	文理融合の人材育成研究
	中高一貫校	資質・能力の早期育成教育
	壱岐高校	東アジア交流、中国文化研究 上海外国語大学
	対馬高校	東アジア交流、韓国文化研究 釜山外国語大学 釜慶大学校
	県外高校	国際会議・FW の相互参加
連携機関	長崎大学	高度な学びの研究
	他大学	課題研究における協働
	企業等	課題研究における協働

◎管理機関の管理の下、各委員会は以下の役割を果たす。

運営指導委員会

管理機関、拠点校、連携機関の
取組への指導助言等

事業検証委員会

計画の遂行状況、ネットワーク
全体の課題・成果等の分析

WWL 連絡協議会

共同課題研究・国際会議の実施

※「SSH 校」3 校、「他県の WWL 拠点校」2 校とは探究学習や探究発表会、国際会議の開催等において互いに協働するが、経費の使用や事業の成果については区別化を図ることを確認。

第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

(1) カリキュラム開発

①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)

高校1年生全員を対象に、令和2年度よりカリキュラムに位置づけて(1単位)実施している。フィールドワークやデータ分析等の探究スキルを育成することを目的に、大学教員・行政・企業の専門的視点を取り入れた実験や調査、外国人大学院生によるオンライン講義を実施した。

昨年度に引き続き、本年度も150以上の企業・行政機関および大学の専門家等とオンラインによる意見交換や講演会を実施した。IGRの評価については、本校独自のルーブリックに基づいて、中間発表会やクラス発表会でのプレゼンテーションや研究レポート等を中心に、複数の観点による点数化(パフォーマンス評価)を実施している。

【高1中間発表会 プレゼンテーションルーブリック】

段階 観点	5 優秀	3 良	1 もう一歩
メインメッセージ	①メインメッセージがしっかりと存在する(研究の意義と成果が伝わる) ②根拠が明確である(先行研究や根拠のある情報を踏まえている) ③論理的に説明されている(話の展開が自然である)	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
言語	①使っている言葉が的確である ②専門用語の解説など、聴衆にわかりやすい工夫がある ③割り当てられた時間をフルに使うことができる	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
話し方	①発表者全員の姿勢が良い ②発表者全員がジェスチャーを交えて話している ③発表者全員が原稿を見ることなく聴衆を見て話している ④発表者全員の声の大きさ・話し方が聞き取りやすい	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。
スライド	①イラストやグラフ等がうまく用いられてわかりやすい ②文字による情報をわかりやすく表示している ③引用元が各スライドに表示され、インターネットの情報以外に参考文献が示されている ④該当するSDGsがスライドで明記されている	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。

【高1研究レポートルーブリック】（※B評価未満やA+、B-等の欄は割愛）

I G R ・ 総 探 日 本 語 レ ポ ー ト ル ー ブ リ ッ ク 以下の観点をもとに評価します。				
項目	観 点	S	A（優秀）	B（基準）
1 テーマ設定の背景	①初めて読んだ人にも課題の背景がわかりやすく記述されている ②先行研究や先行調査等が初めて読んだ人にも理解しやすく記述されている ③事実と意見を混同せず、SDGsに関連して、論理的に記述されている ④オリジナリティ、発想、着眼点が優れている			
2 研究の目的方法	①本研究の意義が先行研究等と比較しながら、具体的に述べられている ②リサーチクエストに対する答えを導くための方法が妥当で計画的になされている ③高校生が可能なレベルで妥当な実験・インタビュー・アンケートが行われている			
3 考察・結果	①事実と意見を混同せず、論理的に記述されている ②実験や調査結果から妥当な考察が導き出されている ③社会課題への解決のために問題を深く掘り下げることができている			
4 結論・課題	①論理の飛躍がなく、妥当な結論が導き出されている（失敗していても原因が指摘され、改善点が示されていればよい） ②具体的に実現可能なレベルで社会提言がなされている ※インターネットによる情報検索だけでなく、信頼のおける参考文献が示されている（ネットからの情報のみ場合は2点減点する）			

②時間割編成の工夫

IGR は木曜日の6校時に設定し、水曜日の6校時には「総合的な探究の時間（総探）」を時間割上組み込んだ。また水曜日と木曜日の7校時は、生徒が探究学習等主体的な学びができるよう学年裁量の時間「E タイム」を設定した。このことによって、教育課程上週4時間を探究学習に活用できるよう工夫し、フィールドワーク・研究室訪問・企業訪問等を実施した。結果として、水曜日と木曜日のIGR、総探、E タイムにおけるプログラムの連動性を高めることができた。

高校2年生の「総合的な探究の時間」も高校1年生と同様に水曜日の6校時に設定し、水曜日の7校時と木曜日の7校時にE タイムを設定することで、高1と高2が同じプログラムを受講する機会を設けることができた。このことによって、高校2年生が高校1年生に助言を行ったり、学年の異なる教員が探究学習に関する意見交換を行ったり環境が整備された。

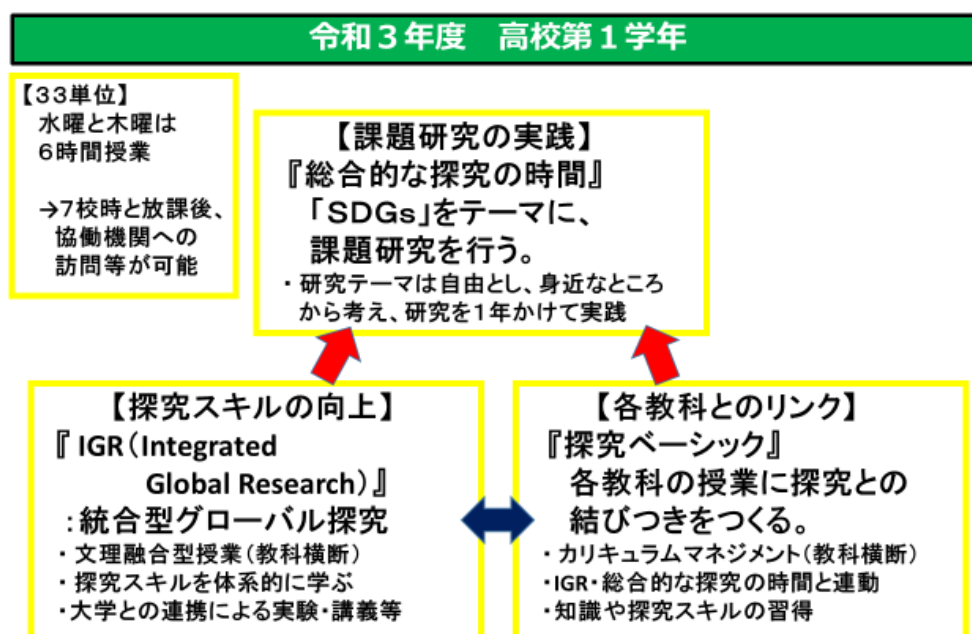
③探究ベーシック

カリキュラム・マネジメントの観点から、高校1年次の初期を中心に教科横断的かつ集中的に学習する期間を設定し、各教科・科目の特色や学習内容に応じて、SDGs等の課題研究に必要な知識や探究スキルについて学ばせることを目的としている。

本年度の実績を次ページに掲載する。

教科	内容	関連 SDGs
国語	「生物の多様性を守っていくことは、なぜ大切なのか。」という問いに対し自分なりの考えを述べた後、主教材『生物の多様性とは何か（福岡伸一）』を読解し、筆者の意見との相違を確認する。	14・15
数学	数学Ⅰ（図形と計量）分野の立体図形の体積を求める内容において、協働して問題解決を図り、目標を達成するためのプロセスを経験する。	17
化学基礎	“化学反応の量的関係と環境問題の考察 ①日本の天然ガス消費による二酸化炭素の排出量 ②二酸化炭素濃度の増加により炭酸カルシウムを骨格とする海の生物に与える影響”	13・14
現代社会	1学期は地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料・水問題などを取り上げ、これらの問題を解決するための姿勢として“Think Globally Act Locally”が大切であることを学ぶ。2学期は憲法と基本的人権の尊重について学ぶ中で、様々な差別を解消していくための取り組みについて考察する。3学期は国連の役割や機構についての学びを通して、SDGsの背景にある戦後国際社会の歩みについて理解を深める。	2・4・5・6・7・13・14・15・16・17
家庭	エコクッキングを取り入れた献立作成と調理	2・3・12・13・14・15
保健	感染症について（現代の感染症、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防）	3
英語	Revised POLESTAR English Communication I Lesson4 Bright Stars in a Dark Sky — Tekapo	8・11・15

IGR・総探・探究ベーシックの相関について、下に図示する。



【高校1年生 IGR と総探の実績】

期日	総合的な探究の時間（水6）	期日	IGR（木6）
4月15日	WWL/SDGs 概論講義（東志行）	4月16日	課題研究基礎演習（東志行）
4月21日	2・3年生代表生徒による模擬発表	4月22日	SDGsグループ活動
5月12日	探究と教科のつながり 講話	5月6日	SDGsグループ発表
5月19日	『私と世界』を読む	5月13日	私と世界動画視聴
5月26日	『私と世界』のレポートを読みあう	5月20日	『私と世界』のレポートを書く
6月2日	班の仮テーマ決定・調べ学習	5月27日	山口大学陳内秀樹先生 動画視聴
6月9日	調べ学習	6月10日	長崎大学山口純哉先生 基調講演
6月16日	調べ学習	6月17日	調べ学習
6月23日	クラス内発表会	7月1日	探究チャンネル報告・FW計画
6月30日	探究チャンネル	7月8日	RECN A 広瀬訓先生 講演
7月7日	フィールドワーク準備	7月15日	フィールドワーク準備
7月14日	フィールドワーク準備		
7月21日	カウンセラー講演		
		7月29日	フィールドワーク ※7/30まで
8月25日	フィールドワーク振り返り	8月26日	研究テーマ見直し・今後の方針検討
9月1日	現2年生の昨年度3月の発表を見る	9月2日	現2年生の昨年度3月の発表を見る
(9月8日)	現2年生の昨年度3月の発表を見る	(9月9日)	現2年生の昨年度3月の発表を見る
9月22日	フィールドワーク計画	9月16日	フィールドワーク計画
9月29日	クラス発表会準備	10月14日	クラス発表会
10月6日	文科省等各種アンケート回答	10月21日	フィールドワーク準備
10月13日	クラス発表会準備	10月28日	フィールドワーク準備 ※溝田先生助言
10月27日	フィールドワーク準備 ※溝田先生助言		
		11月11日	フィールドワーク ※一部11/12まで
11月17日	中間発表準備	11月18日	先行研究の調べ方・中間発表準備
11月24日	中間発表準備	11月25日	論文講座（大分大学麻生教授）
12月1日	中間発表準備	12月2日	中間発表準備
		12月9日	中間発表リハーサル
12月15日	中間発表会		
12月24日	先行研究の示し方の学習・班活動	12月16日	中間発表振り返り・今後の計画
1月8日	日本語レポート・ポスター制作	1月13日	日本語レポート・ポスター制作
1月19日	日本語レポート・ポスター制作	1月20日	日本語レポート・ポスター制作
2月7日	日本語レポート・ポスター制作	1月27日	日本語レポート・ポスター制作
2月9日	日本語レポート・ポスター制作		
2月16日	クラス内発表会リハーサル		
		2月24日	クラス内発表会
3月2日	WWL 課題研究発表会の準備	3月3日	WWL 課題研究発表会の準備
3月16日	WWL 課題研究発表会の準備	3月17日	WWL 課題研究発表会の準備
3月23日	1年間の振り返り		

L H R	
11月4日	FW準備
11月9日	FW準備
11月16日	FWお礼状作成
12月14日	中間発表準備
12月21日	班活動
1月18日	班活動

④中国語の開設（２単位）

本年度より高校２年生国際科に開講され、長崎外国語大学より中国人講師が週１度拠点校を訪問（２～３学期は主にオンラインで実施）し、希望により中国語を選択した１０名を対象に実践的な中国語会話の授業が展開された。

中国語選択生徒を中心に、長崎県国際課による新規連携プロジェクト「ICTを活用した新たな国際交流の推進 上海市との交流」を２回実施した。本事業の目的は以下のとおりである。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、人の往来が制限されている中でも ICT を活用することによって、海外の友好都市との交流拡大や次世代を担う若者の育成、学習者の語学向上、更にはコロナ収束後の相互往来の機会創出に繋げ、地域における幅広い分野での交流推進を目指す。（長崎県国際課作成）

１２月２１日に高校２年生１０名と高校１年生６名が参加し、上海外国語大学附属高校の生徒１５名と地元の紹介（食、観光等）や学校生活等を話題にオンライン交流を行った。２月２４日は、高校２年生１０名と高校１年生２名が参加し、中国で活躍するグローバルビジネスパーソン２名（上海市外事弁公室アジアオセアニア処科長 計曉芳（けい ぎょうほう）氏、上海理工大学外国語学院日本語学部講師 郭麗（かく れい）氏）へのインタビューを、中国語を交えながら行った。



グローバルビジネスパーソンへのインタビューの様子（R4. 2/24）

在長崎中国総領事館からの依頼により、冬季北京五輪開催に向けた応援メッセージ画像を中国語選択者が中心となって作成し、景德鎮製の記念マグカップを進呈されるなど深く感謝された。

今後は連携校である壱岐高校にも中国語が学べるコースが設置されていることから、本校と連携校、および上海外国語大学等を遠隔システムでつなぎ、中国語を交えての課題研究交流に取り組むことを計画し、壱岐高校担当者とも WEB 会議による情報交換を実施した。詳細は、第３章「高校生国際会議の計画」にも記載する。

⑤高度な課題研究を実施するための基盤整備

【WWL 基調講演、高大連携講座】（６月）

課題研究でテーマを設定するための視点や、学術的な研究にふれることを目的に、事業協働機関である長崎大学の協力の下、６月に実施した。詳細は、WWL 事業成果普及のために学校ホームページに掲載し、保護者へ配布している学校情報誌「ワールドワイド・レポート」にまとめた。（次項）

オンライン探究基調講演

6月10日(木)6校時に高校1・2年生を対象に、長崎大学経済学部山口純哉准教授の「オンライン探究基調講演」を行いました。現在の長崎を経済という視点からとらえた地域経済の話と、山口先生が行っている福島の復興支援の話をしていただきました。生徒の感想では、「物事を批判的に見る視点の大切さを知ることができた。」「長崎の人口流出の問題を具体的に知ることができ危機感を覚えた。」「駅にできる新しい施設による様々な影響について考えることができた。」「合成の誤謬、囚人のジレンマなどの用語をわかりやすく知ることができた。」「今後の探究活動では、固定概念にとらわれず、最終的に自分が何をしたいかを明確にして取り組みたいと思いました。」など、新しい視点を取り入れることができたという意見が多くありました。

7校時には、山口先生に質問がある生徒と、課題研究で地域経済のことを研究しようとしているチームの30名でトークセッションを行いました。そこでは、ベーシックインカム、LGBTや観光などについて意見を交換しました。また、生徒の皆さんの問題解決にかかる熱心な姿勢に触れた山口准教授からは、今後もコロナ禍の状況に応じてオンラインや対面で議論しましょうとの発言がありました。今回はこれから始まる課題研究の視点を考える良い機会になりました。ありがとうございました。(写真はトークセッション終了後の写真、長崎大学HPより)



長崎大学のHPでも
紹介されました。

長崎大学による 高大連携出前講座

6月16日(水)に高校2年生において、長崎大学から講師の先生をお招きし、高大連携出前講座を行いました。生徒たちは、次記10講座の中から自分の興味関心の高い講座を受講しました。

多文化(岩本佳子)・経済(吉沢裕典)・教育(前田桂子)・環境(利部慎)・構造工(源城かほり)・情報(高橋将宜)・電気電子工(中野正基)・医保健(鶴崎俊哉)・薬(大山要)・機械工(山口朝彦) ()は講師氏名 敬称略

当日は、最先端の研究内容や実験を交えた専門性の高い講義内容に、生徒たちも大きく刺激を受けたようです。受講後は「大学で学びたいという気持ちが非常に高まった」「探究の研究内容の参考になる内容があった」など、前向きな感想が多く寄せられました。コロナ禍でオープンキャンパスなどにも行く機会が限られる中、大学での研究内容に触れられる貴重な体験となりました。



写真：水環境の汚染実験(環境)

「いつもの学校の授業では知ることができないことを多く学べた。また、工学部のイメージが明確になったり変化があったりした。はじめは、工学部に対し「物づくり」のイメージがとても強かったが、お話を聞くうちに、人の生活環境の多くのことを考えられる学問なのだとわかった。特にオフィスでの緑の配置についてのお話には、驚くことがたくさんあり、工学部でもこのようなことを行っているのだとわかった。今後、進路について考える中で、今日気づいたことや学んだことを活かし、学部について考えていきたいと思う。」

構造工(演題：健康で快適な居住環境と省エネルギー知的生産性)を受講した生徒の感想文より

【探究チャンネル】（6月）

6月30日に高校1・2年生全員を対象に、WWL 協働機関・連携機関を中心に、以下のとおりオンラインによる講演会を実施した。生徒は希望する講座に2つ参加し、SDGsの複数の視点や文理を融合した学びを経験した。

1	目的	・社会の第一線で活躍する方々や大学の先生方の講演を拝聴し、探究活動の深化を図る。 ・WWL 拠点校として県内外高校への教育事業の普及を担い、広く教育の発展に資する。
2	日時	令和3年6月30日（水）①14:20～15:05、②15:25～16:10
3	形式	オンライン（Teams または zoom）
4	対象	高校1年生（281名）、高校2年生（272名）
5	内容	講師、実施教室および担当者は以下のとおり

時間	教室	担当者	講演企業および大学	講師
①	1-1、1-2、視聴覚	入里、阿比留稚、井元	ハウステンボス	山元美由紀様
	1-4	前田耕	長崎大学情報データ科学部	全炳徳先生
	2-5、2-6	城下、黒田	JICA 九州長崎デスク	戸崎千尋様
	1-7	野田	株式会社すはだみらい研究所	大嶋太郎様
	2-1、2-2	磯野、古川	地域循環研究所	豊澤健太様
	2-3、2-4	隈、丸田	長崎大学工学部	出水享先生
	社会科	福田	小川の家	小川勇人様
②	1-1、1-2、1-3	井元、阿比留稚 阿比留愛	トイレ協会	竹中晴美様
	1-5	山元	協和機電工業	松園理恵子様
	2-5、2-6	黒田、城下	長崎大学医学部	松本恵先生
	1-6	寺田	長崎県立大学国際社会学部	小原篤次先生
	社会科	古川	長崎県立大学看護栄養学部看護学科	重富勇先生
	2-1、2-2、 2-3、2-4	丸田、隈 磯野、濱村	ジャパネットホールディングス	折目裕様
	視聴覚	猿渡	九州大学工学部	島ノ江憲剛先生

【クリエイティブ・スタディー・ウィーク】（7～8月）

能力や興味・関心に応じて大学を訪問し、高度な学びに取り組めるよう、高校1年生と高校2年生ともに、前述の「Eタイム」や総合的な探究の時間および IGR（高1のみ）の授業を組み込んで、教育課程や時間割編成上の工夫を行った。また、長期休業期間を中心に生徒が個々の興味・関心や研究テーマに応じて、下記のような自由な学びに取り組むための期間「Creative Study Week」を新たに設けた。

これらの自主的な取組については、本校の「グローバルマインド育成プラン」により、35 単位時間以上で「学校外における学修に係る単位」として認定する仕組みを SGH 指定時より運用している。

- ①大学等における公開講座の受講やゼミ等への参加
- ②海外への短期留学やイベント等への参加
- ③課題研究等に関連したボランティア活動
- ④個人やグループで企画するフィールドワーク
- ⑤論文等の執筆活動
- ⑥その他生徒自身がキャリア形成や課題研究に役立つと考える活動

なお、本年度は連携機関である九州大学が主催する「未来創生科学者プロジェクト」に高校 2 年生が 8 名参加した。

【フィールドワーク週間・フィールドワークデー】（7・11 月）

生徒は課題研究に必要なフィールドワークを、前述の「IGR」「総探」「E タイム」を利用し、主体的に実施しているが、年に 2 度学校行事としてフィールドワークの日を設定している。7 月には長崎市内のフィールドワークを、11 月には離島を含む県内フィールドワークを実施している。様々な場所へ出向き、現地で専門家の話を聞き、実地調査をするなどして研究を進めている。昨年度、今年度はオンラインでのインタビューも実施しており、校内の学習環境から県内外の講師と意見交換を行っている。特に 7 月については前述の「クリエイティブ・スタディ・ウィーク」と位置づけ、3 日間の授業日を充当している。11 月に関しては、近隣地区のフィールドワークには 1 日、離島地区の実地調査には 2 日間の授業日を充当している。壱岐フィールドワークでは、連携校である壱岐高校の 1 年生全員に WWL 事業の取組について生徒によりプレゼンテーションを実施した。

《高校 1・2 年生の主なフィールドワーク先（一部）》

対馬	・対馬市役所 ・対馬の海岸	長崎市周辺	・長崎大学多文化社会学部、経済学部、教育学部、環境科学部、水産学部、熱帯医学研究所、核兵器廃絶研究センター、感染症共同研究拠点、ダイバーシティ推進センター
	・豊玉漁港		・長崎県庁（自然環境課）
壱岐	・ステラコート大安閣		・長崎市役所（障害福祉課）
	・壱岐市役所		・長崎市立図書館
五島	・五島中央病院		・協和機電工業
	・久賀診療所		・平和公園
	・五島市役所		・祈りの丘絵本美術館
	・五島の海岸		・soubi' 56（田川憲ギャラリー）
	・アグリコーポレーション		・グラバー園
	・イー・ウィンド		・井手果樹園

佐世保市	・ハウステンボス	長崎市周辺	・子ども食堂はこべら
	・海きらら		・県水産試験場 ・県漁業連合組合
大村市	・ミライ on 図書館		・長崎新聞社
	・長崎県教育センター		・長崎歴史文化博物館
諫早市	・大和紙料株式会社		・長崎三共有機株式会社
	・アイバンク諫早		・Take it 虹

【5Gを活用した新規連携プログラム】

12月18日（土）出島メッセで行われたNTTドコモ中国支社主催による「5Gオンライン平和学習」に国際科2年生16名が参加した。広島・長崎の5Gエリアをつないで、広島の学生や全国のweb参加者と遠隔平和学習を行い、その平和の想いを共同制作にてデジタルアートで表現した。

第1部では、全員がまるで同じ空間にいるような巨大パネルを使用して町の風景やモニュメントに込められた平和への想い・設立の意図について学習し、広島・長崎の感じ方の違いについて感想の交換やディスカッションを行った。第2部では、4班に分かれ、NTTドコモの5GソリューションであるVirtual Design Atelierで広島の学生とつながり、同じバーチャル空間に入って、最新技術であるVRデジタルアート制作を行い、班ごとに考えた平和・未来・世界へ向けた祈りを表現して、新たな継承の形として発表した。

《参加した生徒の感想》

- ・内藤さんと調さんの広島・長崎の被爆後の惨状や復興の様子についてのお話を聞いて、それぞれの共通点や相違点を学ぶことができて、より一層原爆への理解が深まりました。また学んだことをVRを通して表現するということで、広島の人と遠隔で共同作業をするのはとても新鮮で楽しかったです。操作が結構複雑で、慣れるのにかなり時間がかかりましたが、一旦慣れてしまえば、操作が複雑な分、自由度も高いのでスムーズに創作できました。
- ・5Gアート制作では、ゴーグルを着けるとバーチャルの世界に行ったかのような視界が広がった。想像した物を形にするというのが新鮮な体験で非常に面白かった。最初はどんなふうにコラボするんだろうと思っていたが、広島長崎を繋いで、同時にお話を聞けたりしてすごい時代だなと思いました。数少ない被爆者の方々が、いろんな場所に同時に、直接に近い感じで話をできるのがいいなと思いました。



⑥その他：部活動における連携機関や連携校等との共同プロジェクト

10～12月にかけて、長崎大学工学部の出水享先生の指導の下、「写真で伝える土木の魅力プロジェクト」に、本校写真部と連携校である大村高校と諫早高校の写真部述べ約40名の生徒が参加した。オンラインによる事前講義とダム工事現場や道路橋梁工事現場でのフィールドワークを国土交通省や長崎建設新聞の協力の下で実施した。このプロジェクトに関する写真展は、3月に諫早駅構内で開催された。詳細は下記のとおりである。

【写真で伝える土木の魅力プロジェクト】

1. 経緯

令和2年5月に、長崎大学工学部の出水享先生より、その年より長崎県高文連写真専門委員長となった長崎東高校写真部顧問（黒田佳孝 教諭）に「写真で伝える土木の魅力プロジェクト」への協力の依頼があった。同プロジェクトは、インフラ整備など社会的に重要な仕事であるはずの土木が近年人気薄で人材不足であることから、その回復のために工学博士の出水先生が立てられた企画で、高校写真部に工事現場の写真を撮ってもらい、展示会をするというものであった。

黒田教諭は、以前から、その活動と人物に興味を持っていたので、すぐに協力する旨を伝えたが、折しも新型コロナウイルスの第1波の影響下にあり、すぐの実現は難しそうであった。そこで、本校の生徒に向けて、オンライン講義をお願いし、「命と暮らしを守る『水』と『土木』」という題で講義をいただき、結局同プロジェクトについては、令和3年度への持ち越しとなった。

2. 第2回オンライン講義

令和3年度も新型コロナウイルスの波が襲い延期が繰り返されたが、第5波の後の小康状態について実現に漕ぎつけた。長崎県下すべての高校生を巻き込むことはコロナ禍の中ということもあり難しかったので、実際に撮影に行く諫早市本野の本名川ダム工事現場、諫早市森山町の島原道路橋梁工事現場に近い、WWL事業連携校である大村高等学校、諫早高等学校に声をかけ、本校を含めた3校で取り組むこととなった。

10月27日（水）に大村高校の生徒、10月29日（金）に、諫早高校と本校の生徒が、出水先生より事前のオンライン講義をいただいた。内容は、日本の上水道、下水道の整備の話から、水環境の整備がいかに人間の健康や命とかかわるか、またアフガニスタンにおける中村哲氏の活動にも触れ、インフラ整備が「水」や「医療」、「平和」にもかかわること、インフラ整備が大きくまちづくりにかかわっていることなどを話された。SDGsの各項目を別個に考えていた生徒たちには、それぞれが関連した問題として存在することが実感できたようであった。

3. 工事現場撮影

11月13日（土）と12月27日（月）の2回に分けて工事現場の撮影を行った。2回ともに、大村高校は島原道路橋梁工事現場の撮影、諫早高校と本校が本明川ダム関連の工事現場撮影に赴いた。大村高校は20名ほどの参加、諫早高校と本校はそれぞれ3名ずつの参加であった。現場を担当されている建設会社の方々をはじめ、国土交通省、長崎建設新聞の方々から、詳細な説明、バックアップをいただいていた撮影であった。生徒たちは普段間近に見ることのない工事現場の様子や重機などに夢中になって

シャッターを切っていた。また、工事の目的やその技術に関する話にも熱心に耳を傾けていた。



4. 写真展示会

新型コロナの第6波により延期されたが、令和4年3月13日よりJR諫早駅にて開催された。

【その他】

カリキュラム以外の活動として、マンチェスター大学や長崎市の姉妹都市であるセントポールの高校生（アイアンデール高校）とのオンラインによる交流を、写真部の希望生徒を対象に3度実施した。参加者はお互いの街の風景写真等を紹介し、交流を図った。

(2)「総合的な探究の時間」における研究開発

①中学校の取組

併設する中学校における探究学習プログラムについて、各学年の取り組みの内容を以下に記載する。

【中1】(中2・中3との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
1	総合学習 (平和FW)	1学期	長崎の原爆被害や平和活動について調べ、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、プレゼンテーションや意見交換を行った。
1	総合学習 (職業研究)	2学期	身近な人に働くことについてインタビューし、興味をもった職業について仕事内容やその職業に就く方法等を調べ、レポートにまとめて文化祭で展示発表した。
1	総合学習 (新書レビュー)	2学期 ～ 3学期	興味のあるテーマに関する新書を読み、書評を作成し発表した。
1	グローバル 講演会	10/25 (月) 5～6 校時	「アフリカを身近に感じよう (アフリカトーク&ライブ)」 ケニア マゴソスクール主宰 早川千晶 氏 ミュージシャン インゴマ奏者 大西匡哉 氏 長崎大学多文化社会学部准教授 増田研 氏 目的： ①一人ひとりが世界平和を希求する精神と地球規模の課題を自分のものとして捉え SDGs を達成しようとする姿勢を養う。 ②ケニアで国際支援の活動をされている方の話やアフリカの伝統音楽を聴き、異文化理解を深める。 ケニアのキベラスラムに住む子どもたちについて話を聞き、アフリカの伝統音楽ライブを楽しんだ。
1	イングリッ シュデー	10/29 (金) 1～3 校時	本校 ALT 2 名と県内 5 名の ALT を招聘して実施 目的： ①日頃の英語学習を活かし、英語で活動することの喜びを経験する。 ②ALT との活動を通し、異文化理解を深める。 小グループに分かれ、ALT と一緒にゲームやクイズを楽しみながら英語で活動した。

学年	取組	実施日	実施内容
1 ・ 2	職業講話	10/27 (水) 5～6 校時	「長崎県内の職業を知ろう」 目的： ①長崎県内にある企業の方から直接話を聞くことで、働くことの意義、何のために働くのかなどについて考える。 ②複数の企業の話聞くことで、様々な職業観を知り、今後の進路計画の基礎を身につける。 ③企業の方とふれあうだけではなく、事前・事後学習を行うことで、主体的に自分の将来について考える姿勢を育む。 県内の企業や公的機関 15 社から講師を招聘し、企業の紹介や生徒からの質疑応答に答えいただいた。
2 ・ 3	グローバル 講演会	5/18 (火) 5～6 校時	「ケニアのスラムから世界の平和を考える」 ケニア マゴソスクール主宰 早川千晶 氏 目的： ①一人ひとりが世界平和を希求する精神と地球規模の課題を自分のものとして捉え、SDGs を達成しようとする。 ②ケニアで国際支援の活動をされている方の話を聞き、平和学習の一環として、世界の「平和を阻むもの」について考えさせる。 講演会后、マゴソスクールの生徒たちと本校の生徒（希望者）たちがオンラインで交流を深めた。
全 学 年	グローバル デー	12/21 (火) 6～7 校時	目的： ①英語表現への関心を深め、英語で発表することの喜びを経験する。 ②英語で自分の考えを効果的に伝えるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する。 ③授業を通して学んだ異文化の奥深さと多様性を理解し、効果的に伝える。 プログラム ・ビブリオバトル： 全学年 ・レシテーション： 1・2 学年 ・プレゼンテーション： 2 学年 ・スピーチ： 3 学年 ・ディベート： 3 学年
全 学 年	長崎東 WWL 課題研究発表会	3/22 (火)	中 1：新書レビューの発表 中 2：好きなこと探究の成果発表 中 3：優秀卒業論文発表 中 1・中 2：高校生によるポスターセッション・プレゼンテーション発表を聴講

【中1新書レビュー生徒感想】

- ・新書レビューを書くにあたって、色々なジャンルの新書を読むことができ、探究する楽しさを知った。自分が読んだ新書の筆者のように何かを色々な視点から見て、色々なことを知っていききたい。新書で知った知識や物事を幅広い視点から見る力を今後に繋げていきたい。
- ・本をしっかり読んで内容を理解するという、ふだんしないことを出来たので、凄く自分のためになった学習だったと感じました。また、新書にも挑戦出来て、よい機会だったように思います。
- ・新書を読むことで、今まで気づかなかった考えや見方を発見できたので良かったです。また、そこから考える自分の意見やこれからどうしたいかなど、自分のことをみつめなおすことが今後のより良い自分の成長につながる事ができたら良いと思いました。
- ・様々な社会問題が、今の日本には存在し、それらを解決するために、何が出来るのかを、自分達が考えなければならないと、この活動を通して、考えさせられた。
- ・自分が知らないことも知っていることも、新書は、作者によって一つ一つ違う価値観があって様々な立場から考えることができ、読むことで新たな発見につながる事が分かった。
- ・作者の意見を鵜呑みにするのではなく、自分がそれらに対してどう思うかの深堀りも大事であると改めて思った。情報を鵜呑みにしたりせず、自分なりの考えや意見をもって、いっそう深堀りしていこうと思う。また、他人の意見ももっと参考にしていきたい。

【中1グローバル講演会感想】

- ・今まで、アフリカのことは社会の授業で学習しただけだったので、アフリカで活動している人の話を直接聞くことができ、とても良い経験になりました。スラムがあることや、貧富の差が大きいことは知っていて、そこで暮らす人たちに対して「かわいそう。」と思っていたけど、今日の話で「みんな助けあいながら一生懸命生きている」と聞いて、印象が大きく変わりました。演奏を聴いたときは、どの曲も楽しくて素晴らしい文化だなと思いました。
- ・今まで授業で習って得たほんの少しの知識だけで、「アフリカは大変なんだな～」とアフリカについて全く興味を持っていませんでした。しかし、このグローバル講演会で実際にアフリカに住んでいる方のお話を聞き、スラム街のことなど詳しいことを知ることができました。教科書ではわからなかったことや、動画ではわからないアフリカの音楽をこの身体で体験し感じる事ができ、嬉しかったです。一度アフリカに行ってみたいと本気で思いました。
- ・一番印象的だったのは、早川さんのお話しているときの表情です。アフリカの話、ケニアの話、マゴソスクールの話、どんな話をする時も物凄く笑顔で、楽しそうに話していました。その姿を見て、本当にアフリカが好きなんだな、と思いました。そして、スラム街に暮らす子供たちの事を本当に家族のよう

に思っているんだということが凄く伝わってきました。また、大西さんと一緒に歌っていた音楽に感動しました。音楽は人を元気にする、本当にそうだと感じました。また、いろんなお話を聞いてみたいです。

- ・初めはアフリカの人たちは、辛い環境の中、生きるのに精いっぱいでも苦しそうに生きているイメージが強かったけど、話や映像を見て貧しいながらも協力し合いながら楽しそうに過ごしているのを知り、その強さがすごいと思いました。また、アフリカの音楽を聴き、みんなと手拍子をしていると元気になりました。音楽は人を明るく、元気にする力があると実感しました。早川さんのように、やってみたいと思ったことは何でもチャレンジしようと思います。そして、アフリカのことに限らず、何か自分にできることを見つけ実行したいです。
- ・ケニアの人にとってのマゴソスクールの大切さがよく分かりました。貧困や病気によって亡くなる人、悲しむ人がひとりでも少なくなればいいなと思い、自分にできることはないかと思いました。また、アフリカのみんなで助け合って暮らしていく姿勢やどうにかして生きていこうとする姿勢はすごいなと思いました。
- ・今日、初めてアフリカの音楽を生で聞きました。やはり、生だと迫力が違ってとても聞いていて楽しかったです。私たちが当たり前のように思っている、きれいな水が出る水道があることや毎日おいしいご飯が食べられることなどがアフリカなどでは当たり前ではないことを実感しました。ンゴマやカヤンバなどの楽器は、私たちの身近にある楽器ではないので新鮮に感じました。早川先生の高い声をどうやって出しているのかとても気になりました。今日、改めて世界には様々な文化があり、様々な人々がいて、様々な状況に置かれていることを感じました。これからも、世界のさまざまな文化を学習していきたいです。
- ・今まで、スラム街といえば暗く怖いというイメージを勝手に持っていましたが、笑顔で一生懸命に生きている、そして勉強や食事など、私たちににとっては当たり前なことを当たり前に出来ていないことを知り、私に出来ることは無いのかと気になりました。また、演奏は本当に楽しく、元気がでました。これからの学習で、アフリカや、他の国についても興味を持って学習していきたいです。今日は本当に楽しかったです。
- ・私は英語を話すのは得意ではないけれど、ケニアの人は相手によって言語を使い分けていて、すごいなと思いました。また、早川さんの生き方に憧れました。今の私たちと同じ中学生のときに世界について自分の意見をもち、それが今の早川さんにつながっていると聞きました。今の時期は人生に結構影響を与えるのだと知りました。講演会の後、マゴソスクールに興味を持ち、家で、YouTube のマゴソスクールのダンスを見ました。元気いっぱい踊るその様子は、とても楽しそうで、本当に家族のようでした。早川さんの表情もとても生き生きとしていて、行ってみたくなりました。毎日食べるものに困らないことや、水道や電気が自由に使える環境に感謝しようと思います。近所の人たちと助け合うケニアの人たちの心の暖かさや、辛くても明るく夢に向かってまっすぐなところが素敵だなとおもいました。そ

して、「自然を壊さず大切に使う」という考え方やリサイクルの取り組みなどにも、見習いたいと思いました。とても興味深く、ためになる講演でした。

- ・今まではアフリカのイメージと聞かれると、ほとんどの人たちが貧しかったり子供が親のために働いたりしてみんなが希望を持っていないと思っていました。しかし、講演会を聞いてみんなが明日にむかって今日を一生懸命に生きているのだとイメージががらりと変わりました。世界にはアフリカ以外にも貧しい人や差別を受けている人がたくさんいるのでまず今からできることは世界を知って何ができるのかを考えていこうと思います。また、自分一人で助けるのではなく周りの人と一緒に協力していこうと思います。
- ・早川先生の話聞いて、「アフリカが今までより身近に感じた」気がしました。私の持っていたイメージとは違ってアフリカの人たちは、明るく助け合いながら生きていることを知って、私たち日本人にはないものを感じました。アフリカの人たちの良いところはやはり助け合いだと思います。自分がつらくても、周りの人が病気になったり、亡くなったしたら、生活費を削ってまで必要なお金を出し合うことができる思いやりと潔さが私はとても好きです。
- ・私は今までボランティア活動に参加したことがありません。でも今回のことをきっかけに、これからはどんな小さなボランティアにも参加してみようと思います。そして私の生活の小さな問題も考えていこうと思います。それがアフリカの事を考える最初の一步にしたいです。アフリカが今よりも状況が良くなると嬉しいです。
- ・早川さんの話を通して「文化を比べて考えない」という言葉が心に残りました。アフリカで旅をすれば、文化の違いによる不満やストレスがあるだろうと考えていたが、早川さんはその違いも受け入れる、楽しいとおっしゃっていて、とても驚いた。世界に対して疑問をもつ、そして、その答えを知るために海外に飛び立ち、その土地の文化を楽しむ。今の私は疑問を持っても海外に飛び立つことはできない。だから、本やインターネットやオンライン通信での会話などを通して、違う文化を持った人と交流したい。そして、自分の中の思い込みや偏見を無くし、世界をよく知った人間になりたいと思う。



ケニアマゴスクール主宰早川千晶氏によるオンライン講演の様子

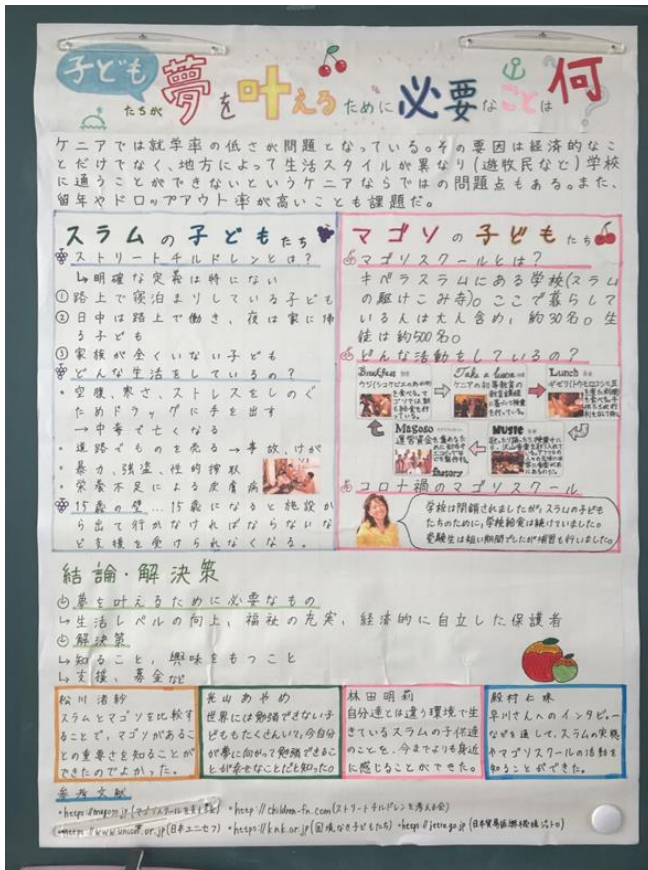
【中2】

学年	取組	実施日	実施内容
2	総合学習 (SDGs × 長崎×○○ =平和)	1 学期	自分が考える平和(戦争・原爆だけでなく、身近な平和も含む)が SDGs の 17 項目のどれにつながるのかを考え、実際に長崎の特徴や良さを生かして、長崎で(長崎に関連するもので)行われていること、解決できることについて探究し、リーフレットを作成した。また、中1に SDGs と平和を絡めて長崎でできることについて教示した。
2	総合学習 (好きなこ と探究)	2 学期 ～ 3 学期	自分が興味のあることを活かして、長崎の諸問題の解決に向けて考えを深め、プレゼンテーションを実施した。

【中3】(中2との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
3	総合学習 (平和学 習・ポス ターセッ ション)	1 学期	現在、世界の中で『平和を阻むもの』にはどのようなものがあるかの講義を 20 分程度 6 講座受講した。それらのテーマを軸に、グループに分かれ、自分たちが考える「平和を阻むもの」とそのことに関して自分たちができることをポスターセッションの形で学年内と中学全体の平和学習日に発表した。
3	総合学習 (探究)	2 学期 ～ 3 学期	「() × SDGs = ()」として、SDGs17 の目標の中から身近な目標と関連付けて課題設定をした。総 18 時間のうち、小論文指導 1 時間を受け、調査・調べ学習をしながら、各自 PC に論文をまとめた。グループ発表とクラス発表後、各クラス代表 1 名がパワーポイントを作成し、3/22 の WWL 課題研究発表会で動画発表を実施した。
2 ・ 3	ケニアのス ラム街にあ る学校との 交流活動	2 学期	ケニアの教育に興味を持った生徒 6 名が、ケニアの同世代の生徒へ自己紹介および質問事項を入れたビデオレターを作成した。その映像を現地へメールで送信し、ケニアの子供たちに視聴してもらい、ビデオレターを送ってもらった。双方の生徒たちも一度ではなかなか理解できなかったが、複数回視聴することで、お互いの伝えようとする内容を理解した。また、ケニアの学生たちが受験を控えていることを知り、応援メッセージを 2 年生が作成したが、前述の 6 名が個別にメッセージを送り、手紙やカードでも交流した。ビデオレターだと各個人が保管できなかったが、手紙やカードだと日本でもケニアでも個別で保管することができ、個別での交流につながることもあった。
3	ケニアに関 するイベン トにボラン ティア参加	10 月	長崎大学の熱帯医学研究所の院生や医学部の学生が中心となって開催された「ポレポレライブ」に、有志の生徒が 15 名参加した。テントの設営・撤収、ケニアの民族楽器製作、音楽イベントに参加するだけでなく、運営していた大学生や大学院生からケニアに実際にボランティ

			アに行ったこと、日本にいながら学生の自分たちでもできる国際交流に関する話を聞ことができた。また、グローバル講演会の講師、早川さんや大西さんと直接話をする機会も得られ、これまでの交流を通して疑問に思っていたことなどを質問し、アドバイスをいただくことができた。
--	--	--	--



中3生徒が作成したマゴゾスクール（ケニアのスラム地区の学校）を紹介し、貧困問題の解決に向けて取り組んだ内容についてのポスター

②高校1年生の取組

高校1年生の主な取組は第2章（1）カリキュラム開発の各項目で記載している。本項では、総合的な探究の時間・IGR・Eタイム、および7月と11月のフィールドワークを中心に実施した探究学習の研究テーマと、12月と3月に実施した発表会について記す。

【研究テーマ一覧】

組	班	研究テーマ
1組	A	食育を通してフィリピンのストリートチルドレンを救うには
	B	長崎市のバス環境の改善について
	C	若者の魚離れを防ぐために、レシピを作る

	D	ザリガニの効率のいい捕獲方法と活用方法
	E	外国人の防災に対する意識向上を促進する防災パンフレットの作成
	F	簡易かつ効率的なコンポスターの開発
	G	教員の幸福度の向上：教員の現状の問題点を調べて解決策を考案する
	H	キャンドルによる蚊よけ
	I	今日からあなたもアライ！（保護者世代がセクシャルマイノリティに理解を深める）
	J	水不足解決のための海水淡水化装置についての研究
2 組	A	地域の特産物の廃棄をなくすために
	B	高校生活におけるトイレの表記改善によるジェンダー平等への効果
	C	発展途上国における学校物資とチョークについて
	D	海面上昇に対して私たちができる対策
	E	海ゴミの現状と私たちにできることを伝えるには
	F	カンボジアにおける Q ドラムの活用と発展
	G	高校生の睡眠時間・勉強時間の確保
	H	妊産婦、幼児の死亡率と母子手帳の関係
	I	バスの瞬時の位置情報を正確に把握する
3 組	A	発展途上国と先進国におけるマラリアの現状比較
	B	身近な食事を通して “免疫力 up” を図るには
	C	海からマイクロプラスチックを減らすには
	D	様々な観点から考察した、公共交通機関がまちに及ぼす影響とその対策
	E	太陽光発電で長崎のエネルギー事情を改善するには
	F	バングラデシュの水質汚染を、濾過繊維を使った日用品のリサイクルで改善する
	G	学校給食プログラムに基づきより多くの国に給食を普及させるためには
	H	学生間（高等学校）におけるジェンダー平等をはかるには
	I	長崎におけるフェアトレード消費の現状と日本の課題
4 組	A	「配慮」による視覚障害者との共生社会の実現
	B	海のごみの削減と利用方法について
	C	海ごみ問題に危機感を持つには
	D	色から学ぶ 5 歳までのジェンダー教育
	E	生理の貧困を救うために
	F	トイレから長崎の活性化を図る
	G	人口流出が進んでいる長崎市と佐世保市を比較し対策を考える
	H	長く使い続けたいと思ってもらえるような文房具のアイデアを考案する
	I	従来の飼料と比較した際の昆虫飼料の機能性について
5 組	A	長崎市における汚水処理人口普及率に関する研究
	B	ICT 教育方法の提案
	C	特定技能外国人が安心して暮らせる長崎を創るには

	D	長崎県の食品製造・生産過程における食品ロスの利用 ～地域活性化につなげるために～
	E	長崎居留地時代における英字新聞の研究と活用性
	F	再生可能エネルギーを用いた学校運営
	G	バイオエタノール製造事業の提案
	H	身近なものを使って簡単に真水にろ過が可能な装置の研究
	I	海藻カーテンでマイクロプラスチックを回収する
6 組	A	廃棄野菜で飢餓の子供たちを救おう～栄養バランスを考えたレトルト食品～
	B	プラスチックゴミを減らす
	C	長崎の人とモノを活かし、洋上風力発電の発電割合を大きくできるか
	D	地震が起きた時の復興と時間短縮について
	E	脱・プラスチックを実現するには
	F	海水淡水化技術を利用して、効率的に利用できるろ過方法を調べる
	G	汚染された水を飲むために
	H	長崎市の若年層の人口流出において新しい視点からの対策の提案
	I	新型コロナウイルス感染拡大防止のために
7 組	A	出生登録のされていない法的に存在しない子供たちを救う方法
	B	食品ロスを活用し土壌改良のための肥料を作る
	C	マイボトルの普及について
	D	モザンビークの全ての人に健康を
	E	生分解性プラスチックの作成&普及
	F	海洋プラスチックごみへの対策
	G	カードゲームを通して子供のジェンダー意識は変わるのか
	H	自分の意見を持ち、それを伝える力をつけることができる授業方法とは
	I	聴覚障害のある子どもたちの助詞の使い分け
	J	海洋で分解される釣り糸の開発

【発表会】

対象学年	高校 1 年
実施時期	中間発表会：12月15日（水） クラス発表会：3月2日（水） 課題研究発表会：3月22日（火）
指導者	本校教員
目 的	①班別に作成した研究レポートの概要を、聴衆に伝えることで協働的思考力やプレゼンテーション能力を伸長する。 ②他グループの発表に対して、ルーブリックに基づいてコメント（評価）することで、批判的思考力を養う。

方 法	〔中間発表会〕 ○SDGsの項目で各教室に分かれ、全ての班が5分間のプレゼンテーションと3分間の質疑を行う。プレゼンテーションソフトを使用し発表。 〔クラス発表会〕 ○各班でポスターを作成し、5分間のプレゼンテーションを行う。クラス単位で発表を行い、他分野のSDGsに関する研究・発表に触れる。 〔課題研究発表会〕 ○クラス発表会でのフィードバックを取り入れた発表を行う。各クラスの代表班は、プレゼンテーションソフトを活用し、ステージで発表を行う。その他の班は、ポスターを使い発表を行う。 ○代表班の発表終了後、希望する生徒との質疑応答を行う「フィードバックタイム」を設定する。 〔発表会共通〕 ○生徒は他の班の発表を聞き、気づきなどをコメントシートに記録し、発表した班に渡す。発表した班は寄せられた気づきを参考にし、振り返りシートを記入し、今後の研究へ活用する。
期待される成果	プレゼンテーションを行い、また他班のプレゼンテーションを参観することで、責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップが培われるとともに、自分達の考えを効果的に伝える力を育成できる。

中間発表では、全ての班が5分間のプレゼンテーションと3分間の質疑応答を行った。本校の運営指導委員にも参観していただいた。

クラス発表会では、中間発表以降の研究の成果も含めて研究内容をポスターにまとめ、全ての班が5分間のプレゼンテーションを行った。



③高校2年生の取組

高校2年生は入学当初から新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、教育活動に様々な制約を受けながら学校生活を送ってきた。また、1人1台端末の貸与も始まり、新しい様式での教育活動を学校を中心となって行なっている。総合的な探究の時間の目標は、本校が育成を目指す7つの資質・能力・マインドセット「WWL7」を伸長し、学年のスローガンである“be a challenger”にあるような何事にも前向きに挑戦する姿勢を身につけることである。この学年から様々な新しいことを始めており、その変化に柔軟に対応できる学年なので、これからの複雑な世の中でも、生涯を通して挑戦をする姿勢を身につける基礎を培えるように授業をデザインしている。

1年次に新しいカリキュラムの下、課題研究を経験した。2年生では、その続きを行うチームと新しい課題研究を始めるチームがある。基本的な課題研究の流れは掴んでいるところからのスタートなので、ガイダンスは年度当初だけ行い、夏前からチーム編成をして課題研究をスタートさせている。それからは課題研究を進め、12月に中間発表を行い、3月に最終発表を行う。国際科の2クラスは英語で発表し、研究レポートも英語で執筆している。普通科・国際科ともに高校3年生7月に、WWL長崎フォーラムにて成果発表を行う予定である。

新しいカリキュラムでは、生徒の興味関心に応じて多様な教科・科目を履修することができ、全てのクラスで文理を分けない学級編成をしている。したがって、課題研究班に関しても、普通科と国際科のそれぞれで文・理を隔てずに編成できるシステムになっており、課題に対して文理を融合した様々な視点から取り組んでいくことができるという点で有効である。

1年間の探究の流れを以下の表にまとめる。

	総合的な探究の時間（水の6）の取組 一部はEタイム（水の7と木の7）も活用
4月	研究テーマの設定
5月	教科と探究のつながりについて、チーム編成、問い立て（リサーチクエスト）
6月	長崎大学経済学部 山口純哉 准教授 WWL基調講演会、高大連携講座、探究チャンネル
7月	小論文、夏の研究ワークに向けて準備、長崎近郊フィールドワーク（フィールドワーク週間）
8月	夏の研究活動の振り返り
9月	課題研究における個人ワークシートの入力（ポートフォリオ） ワークシートの共有、プチ発表会のスライド作成
10月	プチ発表会、研究の継続
11月	フィールドワーク、フィールドワークの振り返り
12月	中間発表の準備、中間発表会：普通科 12/17 国際科 12/16
1月	中間発表会の振り返り、研究の継続
2月	プレゼンシート作成、レポート作成
3月	最終発表会の準備、最終発表会（WWL課題研究発表会 3/22）

【フィールドワークの様子】（一部）



豊玉漁港での様子



伊王島へインタビュー



五島市の海岸の海ごみ



壱岐市で振興局を訪問



壱岐高校を訪問



オンラインインタビューの様子

【中間発表会】

12月16日(木)に国際科、17日(金)に普通科の中間発表を行った。国際科は22班が2会場で英語でのスライド発表を行った。普通科は46班が7会場でスライド発表を行った。夏以降の課題研究の内容をここで発表した。この中間発表は高校教員が審査し、3月に行われる最終発表会(WWL 課題研究発表会)で優秀班として、体育館ステージで発表する代表の決定も兼ねて行った。



国際科の発表の様子



普通科の発表の様子①



普通科の発表の様子②

【各教科との連携】

国際科では、時事英語の時間に英語での研究レポートの書き方の指導を実施した。レポートの構成やそれぞれの章で記述する内容や効果的な表現について独自のテキストを用いて授業を展開した。また、11月には、事業協力機関のひとつである大分大学より教育学部の麻生雄治教授が派遣され、英語論文講座を実施した。参考として、学校情報誌「ワールドワイド・レポート」の記事を次項に掲載する。

日本語論文講座を開催しました！

11月25日（木）大分大学教育学部の麻生雄治 教授をお招きし、高校1年生全員を対象に、論文の書き方について、御指導いただきました。「論文とは単に先行研究を調べてまとめるのではなく、すでにある文献よりも新しく、妥当性のある議論を論理的・実証的に展開するもの」とのお話がありました。

レポートや論文の作成過程として、①テーマを決める、②問いを立てる、③調べる、④考える、⑤まとめる、との紹介がありました。論文の構成は、「テーマ」から始まり、①はじめに、②目的・問題の設定、③先行研究、④方法、⑤結果、⑥考察、⑦まとめ、⑧今後の課題、⑨参考文献、⑩付録、の順序で、それぞれの章で記述すべき内容を御教示いただきました。

受講した生徒からは、「決まった形式に沿うことで論文の内容を伝わりやすいものにできることを学んだ。」「考えの客観性の重要性や、話の順序による説得力の違いも分かった。」といったコメントがありました。今回学んだことを活用し、高校1年生は研究レポートを作成していきます。さらに、高校3年生では研究論文を執筆する予定です。

西陵高校、島原高校、佐世保工業、杵岐高校、奈留高校より、計6名の先生方もリアルやオンラインで参加され、充実した研修となりました。

英語論文講座を開催しました！

11月26日（金）高校2年生国際科の生徒を対象に「英語による論文作成方法」について、上記の麻生先生より御指導いただきました。英語論文の構成要素は、①Introduction（はじめに）②Purpose（目的）③Related Literature（先行研究）④Study（方法）⑤Results（結果）⑥Discussion（考察）⑦Conclusion（結び）⑧Limitations and Implications（今後の課題）⑨References（参考文献）、⑩Appendix（付録）であり、各章で記述すべき内容や注意点を御教示いただきました。

意見（Opinion）→理由（Reason）→例（Example）→意見（Opinion）の順序で段落を構成する「OREOメソッド」や、I thinkを避けること、能動態を用いること、単文の羅列を避けること、といった具体的な御助言をいただきました。英語表現に関する演習も多く取り入れられ、生徒は楽しく学びを深めていました。

～講義の一部より～①より②の表現が好ましい>

「大学生がボランティア活動に参加するのは良いことだ（と私は思う）」

①I think it is good for university students to participate in volunteer work.

②It is beneficial for university students to participate in volunteer work.

「大統領は不人気の政策決定をしたが、（私の考えでは）それは必要なことだった」

①The President made an unpopular policy decision. In my opinion, it was necessary.

②Although the President made an unpopular policy decision, it was necessary.



【外部連携】

長崎県主催の企画や大学への訪問、探究学習でつながった方々が主催するイベントにも積極的に参加している。校外での体験から多くの学びを得ており、実践報告を行う機会も提供され、WWLの活動を知ってもらうきっかけにもなっている。また、そこでできた専門家とのつながりをそれぞれの研究に生かすことができている。学校外でのつながりにより、「社会に開かれた教育課程」の実践がなされており、その一部について、紹介する。



ウーマンズウォークラリーの下見とながさきの歴史さるく



スポゴミに参加し、第2位



長崎県教委主催
「アントレプレナーシップゼミ」



PEACE GAME を通した平和学習



長崎県教委主催
「アイデアコンテスト」



京都大学 SDGs
リーダー育成プログラム



九州大学「うみつなぎ」の打ち合わせ



長崎大学環境科学部
朝倉教授との意見交換



連携校長崎南高校 SSH 発表会

【高2普通科の研究テーマ】

1	生活困窮者にとって暮らしやすい街をつくるために
2	直売所や地元のレストランから地元野菜の食品ロスは減らせるか
3	家庭から出る生ごみから肥料を作り、その肥料で野菜を育てる
4	電子媒体を通した南アジア貧困地域における識字教育の普及法
5	安価で効果のあるろ過装置を作る
6	コロナ禍における医療現場の現状と改善
7	SNS とメンタルヘルス
8	長崎の特産品を使った介護食の開発
9	食べ物、音楽、香りをはじめとしたストレス解消法
10	長崎市民を対象とした観光活性化
11	教員の魅力を伝えるために
12	長崎かるたで長崎の魅力を伝え長崎に住み続けたいという意識を啓発する
13	一般家庭で行える食品ロス問題解決への取り組みの効果と実用性
14	教育現場向けの新たな人材派遣の提言
15	子育てに対するイメージのギャップを減らすために、私たち高校生ができること
16	LGBT を多くの人に知ってもらうにはどうすればいいか。
17	避難所での健康維持
18	スポーツクラブチーム運営と環境保全
19	隠れた歴史の街深堀を知る
20	環境問題解決に向けた再利用
21	新しい運動促進デバイスの開発
22	長崎における差別
23	長崎の若者の地元への関心を高める
24	企業と地域創生のつながり
25	五島の活性化
26	長崎の人気観光地に隠れた、知られざる魅力を発信する
27	環境×地域活性化
28	スポーツによる長崎の振興
29	長崎の地元食材を活用した非常食の開発
30	長崎県の人口流出の減少及び地域活性は特定の町の PR をすることで達成できるか
31	普段廃棄されるものを回収する方法を生み出したり、その廃棄物から何らかの新たな物につくりかえて活用したりする。
32	高島をより住みやすい島に！
33	学校給食における食品ロスの削減
34	海洋ごみを再利用する
35	紙の再利用
36	地球温暖化のメリット
37	長崎の漁業を盛んに
38	海洋汚染問題について
39	代替魚粉としてのバッタの可能性を探る
40	海洋プラスチックごみの活用
41	海ごみの削減と再利用
42	動物愛護の普及について

43	長崎の伝統芸能の維持・発展のために
44	角膜移植の普及方法
45	動物の殺処分について
46	IT とアクティブラーニングを活用した新しい平和教育

【高2国際科の研究テーマ】

1	ザンビアで安価かつ容易に生産可能な有機肥料とは
2	医療につながるピクトグラム
3	大豆肉を使って肉料理を作る！
4	水をほとんど使わない口腔ケアで発展途上国の口腔環境を改善
5	日本の農業技術を世界へ
6	営利サービスで日本における食生活に対する意識の改善は可能か
7	カンボジアの小学生に対する手洗い啓発による衛生環境の向上
8	発酵食品を用いてアフリカの子供たちの栄養問題を解決することができるか
9	アフリカの材料を使ってマラリアを予防できるか
10	安価な楽器で音楽普及
11	ニジェールの子供たちの学習意欲と職業選択の手助け
12	長崎市中心部において、外出時に誰もがより良いトイレを利用できるようにするには
13	簡易ろ過装置と炭酸カルシウムを利用することで汚水をろ過し、飲料水をつくれるか
14	教育を通して人々の水問題に対する意識を高めることはできるのか
15	郷土長崎の伝統的保存食を活用したエチオピアの食品ロス問題の改善
16	水力発電の効率を高める
17	今求められている旅行商品とは
18	河川氾濫対策の仕組みを側溝に応用する方法を提示する
19	紙ごみを微生物で分解することによって土の栄養度が低い場合でも作物が育ちやすい土をつくれるか
20	川ゴミ回収及び海洋ゴミ問題の啓発活動
21	紙の原料を木以外のもので代用することで森林伐採の抑制はできるのか。また世界中のどの場所でも作成可能な紙の作り方を考え発展途上国でも紙を使えるようにする。
22	放置竹林問題の解決

④高校3年生の取組

総合的な探究の時間（1単位）を用いて、課題研究のまとめとなる日本語や英語での論文作成を行った。国際科については、「異文化理解」の授業を活用し、英語での論文作成について担当英語科教員より継続した指導を実施した。

最終発表として7月5日にWWL長崎フォーラムを開催した。連携校8校から29名が参加し、課題研究成果発表とパネルディスカッションを開催した。具体的なシラバスは次ページに掲載し、フォーラムの内容についてはプログラム、および学校情報誌「ワールドワイド・レポート」を以下掲載する。

【高3普通科】

月	日	曜	形態	場所	内容	備考
4	14	水	班	第2体育館	論文作成について(ガイダンス) 班内で担当者分担 ※代表班は昼休み集合(会議室)	・班ごとに着席 ・論文作成についてガイダンス ・班内で担当箇所を振り分け→シート記入、担当教諭に提出
5	12	水	班	教室 PC室	担当別レポート作成①	・各担当者ごとに文章作成→担当教諭添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	19	水	班	教室 PC室	担当別レポート作成②	・各担当者ごとに文章作成→担当教諭添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	26	水	班	教室 PC室	担当別レポート作成③	・各担当者ごとに文章作成→担当教諭添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
6	2	水	班	教室 PC室	担当別レポート作成④	・各担当者ごとに文章作成→担当教諭添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	9	水	個人	PC室	個人レポート作成①	・個人で「考察」作成→担任・副担任添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	16	水	個人	PC室	個人レポート作成②	・個人で「考察」作成→担任・副担任添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	23	水	個人	PC室	個人レポート作成③	・個人で「考察」作成→担任・副担任添削 ・④345組 ⑥12組 ⑦67組
	30	水	個人	PC室	個人レポート作成④	・USB提出→担任・副担任印刷
7	5	月	代表	視聴覚	WWL長崎フォーラム	・代表班は発表(ステージ1班、ポスター1班) ・サブ発表
	7	水	個人	教室	個人レポート発表会	・クラスでレポート内容について共有 ・リフレクション

【高3国際科】

月	日	曜	校時	探・異	活動	内容
4	14	水	⑥		班の英文レポート推敲①	①章立て、文体を整える ②英文を吟味する ③トピックセンテンスを吟味する
	16	金	⑤	異①	班の英文レポート推敲②	
	21	水	⑥		班の英文レポート推敲③	
	23	金	⑤	異②	班の英文レポート推敲④	
	30	金	⑤	異③	班の英文レポート推敲⑤	
5	7	金	⑤	異④	個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成①	①志望学部・学科の視点からDiscussionのパートを吟味する ②志望学部・学科の研究内容を調査する
	12	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成②	
	19	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成③	
	21	金	⑤	異⑤	個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成④	
	26	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑤	
	28	金	⑤	異⑥	個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑥	
6	2	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑦	
	4	金	⑤	異⑦	個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑧	
	9	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑨	
	11	金	⑤	異⑧	個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑩	
	16	水	⑥		個人英文レポートor日本語論文or英語論文作成⑪	
	18	金	⑤	異⑨	個人研究成果データ提出・印刷①	
	23	水	⑥		個人研究成果データ提出・印刷②	
	30	水	⑥		司会・発表・個人研究成果の展示準備①	
7	2	金	⑤	異⑩	司会・発表・個人研究成果の展示準備②	
	5	月			★WWL長崎東フォーラム（視聴覚・会議室など） ①11連携校のスライド・ポスター発表 長崎東普通科スライド1、ポスター1 国際科スライド1、ポスター1 ②パネルディスカッション ※希望班によるサブ発表	東の代表4班は3/22の発表とレポートにより選出
	7	水	⑥		発表の振り返り	
	9	金	⑤		志望学部学科研究①	①志望学部・学科の研究内容をもとに課題研究について考察を広げる ②大学における研究計画を策定する
	14	水	⑥		志望学部学科研究②	
	16	金	⑤		志望学部学科研究③	
	21	水	⑥		志望学部学科研究④	
	28	水	⑥		志望学部学科研究⑤	
	30	金	⑤		志望学部学科研究⑥	

【WWL 長崎フォーラム プログラム】

2021 WWL 長崎フォーラム



令和3年7月5日（月）長崎東高校

■プログラム

10:00～	受付
10:30～10:50	●開会行事（視聴覚室） 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 鶴田栄次 校長 長崎県教育庁高校教育課 中村陽介 指導主事
11:05～12:30	★スライド発表（視聴覚室）発表時間12分（英語または日本語）、質疑応答なし ①長崎東 普通科（11:05～11:17）リアル ②長崎東 国際科（11:19～11:31）リアル ③大村高校（11:40～11:52）※オンライン ④立命館宇治中高（12:00～12:12）※オンライン ⑤杵岐高校（12:18～12:30）※事前録画 *長崎東高校の高3生徒によるサブ発表（審査対象外）も会議室と高3教室で実施
12:30～13:10	昼食
13:10～14:40	★スライド発表（視聴覚室）発表時間12分（英語または日本語）、質疑応答なし ⑥広島女学院中高（13:10～13:22）※事前録画 ⑦長崎南高校（13:25～13:37）リアル ◆ポスター発表（視聴覚室）発表時間10分・質疑応答3分（英語または日本語） ⑧長崎東 普通科（13:45～13:58）リアル ⑨長崎東 国際科（14:00～14:13）リアル ⑩長崎西高校（14:15～14:28）リアル ⑪三島北高校（14:35～14:48）※オンライン *長崎東高校の高3生徒によるサブ発表（審査対象外）も会議室と高3教室で実施
14:50～15:35	●代表生徒によるパネルディスカッション（視聴覚室） テーマ：①振り返り～「研究や探究学習で身についた力」～ ②将来へ～「今後伸ばしたい力と将来どのように活躍したいか」～ パネリスト：長崎東高校普・国、長崎西高校、長崎南高校、杵岐高校、対馬高校 他の連携校からリモート参加可能 ファシリテーター：長崎東高校
15:35～15:45	●講評、閉会行事（視聴覚室） 長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐 山下龍 氏（予定）

審査員（予定）：長崎大学名誉教授・元国連ユニセフ駐日代表 溝田勉 氏
長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐 山下龍 氏
長崎県教育庁高校教育課 中村陽介 指導主事

WWL長崎フォーラムを開催しました！

7月5日（月）これまで努力してきた高校3年生の課題研究の最終発表として、WWL長崎フォーラムを開催しました。拠点校である本校の普通科・国際科に加えて、連携校の長崎西、長崎南、大村、壱岐、対馬、広島女学院、立命館宇治、三島北が参加しました。本校視聴覚教室での発表、リモートによるライブ発表、事前に録画した発表動画の配信といったハイブリッド方式による研究発表と、代表生徒によるパネルディスカッションが実施されました。

★スライド発表部門

優秀賞	日本語	長崎東普通科	海洋プラスチック削減に向けて （石橋泰志、上戸大希、富地蒼太、平山瑞季、小田原真凜、森田景舜、野本美冬）
優秀賞	英語	長崎東国際科	感染症予防ハンドケア用品の開発 （橋爪凜、岡李奈、楠本碧）
優秀賞	日本語	大村	デンプンによってアイスは溶けにくくなるのか！？
優秀賞	日本語	立命館宇治	PC1台で無限の可能性～study abroad revolution～
優秀賞	日本語	壱岐	IKIKIな冬！！～島ヒュッゲ～
優秀賞	日本語	広島女学院	新型コロナウイルス感染拡大による視覚・聴覚障がい者への影響に関する研究
優秀賞	日本語	長崎南	遅れが発生しにくい路線バス運行経路の検討

★ポスター発表部門

優秀賞	日本語	長崎東普通科	高校生が考える認知症予防 （寺崎健大、田坂颯汰、山下稀星、永田栞理）
優秀賞	英語	長崎東国際科	ケニアの特産品でマラリアは予防できるのか （田端みのり、山口琉空、木寺郁人、天野智佳子、黒木遥人）
優秀賞	日本語	長崎西	迷路実験によるデグーの記号認識能力の検証
優秀賞	英語	三島北	三島駅北口の緑化計画

長崎東普通科の篠崎義史さんと国際科の八木あかりさんが、長崎西、長崎南、壱岐（オンライン）、対馬（オンライン）の代表生徒とともに、パネリストとして登壇しました。国際科の金巻凜さんがファシリテーターを務め、「課題研究（探究学習）で身についた力」や「将来伸ばしたい力」等について討論しました。忍耐力やコミュニケーション力が養われ、他者と協働する力や物事を多角的に見る力が今後も必要との内容でした。



普通科のポスター発表



リアルとオンラインを融合したパネルディスカッション

【高3 普通科の研究テーマ】

班	種別	研究テーマ
1	地域創生	平和のパンフレットを作ろう
2	福祉	高齢者と私たち～超高齢化社会である長崎を支えるには～
3	教育	少人数でも十分なコミュニケーションがとれる英語教育をするためには
4	教育	離島教育で長崎を活性化させよう
5	地域創生	シュガーロードで町おこし
6	地域創生	長崎に停泊するクルーズ船の乗客をターゲットに観光を活性化することはできるのか
7	地域創生	広告で長崎を活性化するには
8	観光	国際交流の活性化と外国人との良好関係の確立
9	観光	長崎県を活性化させるためには
10	地域創生	ホームページをつかって長崎の認知度を高めるには
11	観光	長崎県の観光宣伝
12	福祉	高齢者が健康で楽しく過ごせる環境づくり
13	地域創生	住みよいまちづくりのために
14	地域創生	新しい条例でよりよいまちづくり
15	観光	長崎の観光資源を活用し経済を活性化させるためには ～五島の魅力ある食や長崎の教会群を求めて～
16	経済	野母崎に人を集めるには
17	地域創生	V・ファーレンロードから地域活性化
18	地域創生	マグロの養殖で長崎県の漁業の活性化を目指す
19	地域創生	長崎の人口増加を促すために
20	観光	観光産業で長崎の経済を活性化させるには
21	観光	観光業により長崎の離島を活性化させるには
22	環境	海洋プラスチックゴミの削減
23	環境	海洋再生可能エネルギーを用いて長崎の産業の基盤を作るには
24	環境	海洋プラスチックゴミの削減
25	環境	一つの島だけで電気の自給自足はできるのか
26	地域創生	長崎でオリーブの消費量を上げることは可能か
27	医療	島の医療には何が足りないのか
28	健康	砂糖を控えたカステラで長崎県民の健康を考える
29	健康	長崎の健康増進
30	医療	離島の人材不足を解消するには
31	地域創生	長崎県の人手不足を高齢者雇用によって解決できるか
32	医療	長崎の医療問題と I C T
33	福祉	坂と高齢者が多い長崎で機械工学でできること
34	工学	長崎の買い物弱者をドローンを使って支援することは可能か
35	福祉	施設の複合化～老人ホームと幼稚園の複合～
36	地域創生	空き家を活用して若者流出を防ぐ
37	健康	建築ういずコロナ～ウイルス対策の建材について～
38	地域創生	空き家と若者の需要
39	経済	テレワーク×地方創生
40	地域創生	情報化を経た長崎の観光産業
41	地域創生	I O Tを用いた地域創生
42	健康	感染症の校内での流行を防ぐには

43	医療	おくすり手帳を活用するには
44	福祉	高校性が考える認知症予防
45	医療	SNS を活用して市販薬依存者を救うことはできるのか
46	健康	長崎の食材を使って生活習慣病を改善できるのか
47	教育	日本の教育
48	教育	外国人児童生徒の学校における文化・言語の問題を解決するためには
49	教育	オンライン教育の可能性

【高3国際科の研究テーマ】

班	メイン SDGs	関連 SDGs	研究テーマ
J1	4	1、 5、 10、 17	ネパールにおける初等教育の改善～教員の問題改善～
J2	4	16	教育を充実させることで武力なしの平和を実現する
J3	5	4、 10、 16、 17	偏見をなくすための教育
J4	16	10	LGBT 歴史から解決できるか
K1	2	3、 12	食料問題を解決するには
K2	7	8、 11	海洋発電によって作り出されたエネルギーをまちづくりに利用できるか
K3	11		総合的に津波に強い理想的なまちづくり
K4	12	2、 14、 15、 17	給食の食べ残しによるフードロスを減らせるか
M1	3	6	身の周りのあるもので感染症を予防できるか
M2	3	6	手洗いの効果
M3	4	10	音楽の授業の目的から途上国の教育を考える
M4	15	11	野良猫による問題解決と我々に与える経済効果
S1	3		新生児に特化した感染予防
S2	3	1、 4	マラリア媒介蚊の繁殖を防ぐ
S3	3	4、 6、 7、 13	高校生が医療環境の乏しい地域の人々に対して、最低限の知識を提供し、現地住民同士が救い合えるようにする
S4	9	11	ビッグデータを用いてバスの混雑率は減らせるのか
S5	13	7、 11、 12、 14、 15	サボテンで CO2 削減（及び砂漠緑化）
T1	4	1、 5、 8、 10、 16、 17	バングラデシュにおける識字率向上に向けて
T2	6	3	発展途上国の水環境を改善するために、募金の集金方法と、現地での改善方法を考えよう
T3	11	13	避難所生活を快適にするには
T4	14	6、 8、 12、 13、 15	海洋プラスチックを解決するために

(3) 事業協働機関・事業連携校との取り組み

①共同探究プログラム

【長崎大学による高大連携講座】

長崎県教育委員会は長崎大学と高大連携事業に関する協定書を交わし、「高大連携事業に係る科目等履修生を対象とした授業科目」および、「高校生公開講座」、「オープンラボ」等の取組を実施してきた。本校はその事務局として、県下の高校と長崎大学との連絡調整を行っている。本年度は、大学入学後の単位認定が可能な授業科目として、「数学への誘い～数学の世界を楽しもう～」が開講され、本校からは3名が履修した。また、「高校生公開講座」が3講座、「オープンラボ」は12講座が開講され、単位認定可能科目を合わせると県内17校から合計90名が8月3日～6日を中心に受講した。

【長崎大学による高大連携リレー講座（WWL 基調講演・高大連携出前講義）】

6月10日に、事業協働機関である長崎大学より経済学部の山口純哉 准教授を招聘し、高校1・2年生を対象とした WWL 基調講演会（オンライン探究基調講演）を実施した。また、6月16日には高校2年生を対象に、高大連携出前講座をリレー式に開催した。本プログラムの詳細について、学校情報誌「ワールドワイド・レポート」と実施要領を次項に示す。

Nagasaki Higashi World-Wide Report 「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブな人材の育成	 World Wide Learning	2021年度 第5号 July 26, 2021
オンライン探究基調講演		
6月10日（木）6校時に高校1・2年生を対象に、長崎大学経済学部山口純哉准教授の「オンライン探究基調講演」を行いました。現在の長崎を経済という視点からとらえた地域経済の話と、山口先生が行っている福島復興支援の話をしていただきました。生徒の感想では、「物事を批判的に見る視点の大切さを知ることができた。」「長崎の人口流出の問題を具体的に知ることができ危機感を覚えた。」「駅にできる新しい施設による様々な影響について考えることができた。」「合成の誤謬、囚人のジレンマなどの用語をわかりやすく知ることができた。」「今後の探究活動では、固定概念にとらわれず、最終的に自分が何をしたいかを明確にして取り組みたいと思いました。」など、新しい視点を取り入れることができたという意見が多くありました。		
7校時には、山口先生に質問がある生徒と、課題研究で地域経済のことを研究しようとしているチームの30名でトークセッションを行いました。そこでは、ベーシックインカム、LGBT や観光などについて意見を交換しました。また、生徒の皆さんの問題解決にかかる熱心な姿勢に触れた山口准教授からは、今後もコロナ禍の状況に応じてオンラインや対面で議論しようとの発言がありました。今回はこれから始まる課題研究の視点を考える良い機会になりました。ありがとうございました。（写真はトークセッション終了後の写真、長崎大学 HP より）		
	 長崎大学の HP でも紹介されました。	

令和3年度 長崎大学による高大連携出前講義 実施要領

- 1 目的 進路学習の一環として、大学教授・准教授から講義を受け、専門的な学問に対する学習意欲を高め、将来の自己の進路について考えるきっかけとする。また、専門的な内容に触れることで「探究」の活動をより豊かなものとし、課題研究の一助とする。
- 2 期日 令和3年6月16日（水） 6・7限
- 3 対象 高校2学年（272名）
- 4 日程

14:00～14:15	受付（応接室）
14:15～14:25	会場設営・準備
14:25～15:55	大学・学部紹介、講義
15:55～16:15	質疑応答、お礼の言葉、感想文記入
- 5 実施講座と使用教室

学 部	講 師	使用教室	参加数	担当者
多文化社会	岩本佳子 准教授	社会科教室	43	ジャック、城下
経済	吉沢裕典 准教授	視聴覚室	52	黒田、橋本
教育	前田桂子 教授	会議室	53	陶山、泉
環境科学	利部慎 准教授	高2-1	17	横山（実験あり）
工（構造工学）	源城かほり 准教授	高2-2	13	古川（zoom）
情報データ	高橋将宜 准教授	高2-3	18	隈
工（電気電子工学）	中野正基 教授	高2-4	9	丸田
医（保健）	鶴崎俊哉 准教授	高2-5	28	廣松
薬	大山要 准教授	高2-6	20	山口
工（機械工学）	山口朝彦 教授	高2-7	19	進藤

長崎大学による 高大連携出前講座

6月16日（水）に高校2年生において、長崎大学から講師の先生をお招きし、高大連携出前講座を行いました。生徒たちは、次記10講座の中から自分の興味関心の高い講座を受講しました。

多文化（岩本佳子）・経済（吉沢裕典）・教育（前田桂子）・環境（利部慎）・構造工（源城かほり）・情報データ（高橋将宜）・電気電子工（中野正基）・医保健（鶴崎俊哉）・薬（大山要）・機械工（山口朝彦）（ ）は講師氏名 敬称略

当日は、最先端の研究内容や実験を交えた専門性の高い講義内容に、生徒たちも大きく刺激を受けたようです。受講後は「大学で学びたいという気持ちが非常に高まった」「探究の研究内容の参考になる内容があった」など、前向きな感想が多く寄せられました。コロナ禍でオープンキャンパスなどにも行く機会が限られる中、大学での研究内容に触れられる貴重な体験となりました。



写真：水環境の汚染実験（環境）

「いつもの学校の授業では知ることができないことを多く学べた。また、工学部のイメージが明確になったり変化があったりした。はじめは、工学部に対し「物づくり」のイメージがとても強かったが、お話を聞くうちに、人の生活環境の多くのことを考えられる学問なのだとわかった。特にオフィスでの緑の配置についてのお話には、驚くことがたくさんあり、工学部でもこのようなことを行っているのだとわかった。今後、進路について考える中で、今日気づいたことや学んだことを活かし、学部について考えていきたいと思う。」 構造工（演題：健康で快適な居住環境と省エネルギー知的生産性）を受講した生徒の感想文より

【NICE キャンパス長崎「グローバルリーダー育成基礎講座」】

WWL 事業協働機関である長崎大学、長崎県立大学、純心大学を含む長崎県内全 11 大学で構成される大学コンソーシアム長崎において、「グローバルリーダー育成基礎講座」が毎年開講されている。本年度は5月と7月に特別講師として本校教諭（グローバル人材育成部主任）が招聘され、地域の課題をグローバルな視点で考え行動できる人材育成プログラム（約 20 名が参加）の運営に協力した。長崎東高校で実践されている WWL プログラムと7つの資質能力・マインドセットの紹介、および大学生が提案した地域課題解決策への指導助言を行うなど、高校側から大学のプログラムに貢献する取組となった。また、本講座において講師を務めた3名のうちの一人である NPO 法人環境保全教育研究所代表理事の豊田菜々子氏には、後日本校生徒のフィールドワークを支援していただくなど、連携先の拡大にも寄与する講座となった。

【離島地区の連携校（壱岐高校・対馬高校）との取組】

11月に離島フィールドワークを実施し、対馬へ9名、壱岐へ8名、五島へ14名の生徒を派遣した。連携校である壱岐高校・対馬高校では生徒交流会を実施し、WWL 事業や国際会議の概要についてプレゼンテーションを実施し、生徒および担当教員との意見交換を行った。長崎東高校の生徒は、海洋プラスチックごみの削減、地元発酵食品を用いた食品ロスに向けた取組、ICT を活用した教育活動の推進等の探究活動の一環として実地調査を行った。特に 2022 年度に開催される国際会議「アジア太平洋水サミット」で発表する動画を対馬にて作成した。

今回の訪問をきっかけに、WWL 事業の実務担当者間で国際会議に向けた情報交換を本格化させることができた。壱岐高校には中国語を学ぶコース、対馬高校には韓国語を学ぶコースがあるので、今後中国や韓国の生徒と共同し、海ゴミ、友好交流の歴史、高校生平和宣言の起草などのプロジェクトを推進できる基盤が整備された。次年度は五島高校を新規連携校に加えられるよう働きかけたい。

②教員研修

【探究学習】

拠点校事業のひとつとして、校内の全職員が参加する研修を県内の連携校を含むほぼ全ての私立・公立高校へも案内し、参加できるようにしている。R3年度は以下の表に記載した3回の研修を実施したが、県外より2名の講師を招聘することを計画していた探究研修会はコロナ禍のため、次年度へ延期した。他校から具体的な指導事例を紹介してほしいとのリクエストもあったため、次年度は高度な課題研究や地域企業と連携した優れた生徒の事例を紹介する内容も取り入れたい。

期日	講師	内容	外部参加	形態
5/19	鳥居教諭 榎本教諭	WWLについて 問い立て（リサーチク エスチョン）について	長崎南、壱岐、対馬、海 星、長崎日大、純心、南山 （11名）	ハイブリッド （対面＋遠隔）
6/24	榎本教諭	研究手法について	壱岐、対馬、諫早商、諫早 東、島原、大崎、五島、純 心、海星、九州文化学園 （14名）	ハイブリッド （対面＋遠隔）
7/30	榎本教諭	現地調査・実験調査に ついて	大村、壱岐、五島、長崎 北、島原、川棚、諫早東、 海星、南山 （10名）	ハイブリッド （対面＋遠隔）

※大分大学麻生教授による生徒対象の論文講座もオンラインで公開し、壱岐、西陵、島原、佐世保工業、奈留から合計6名の教員が参加した。

【研究・実践発表】

2月13日に、長崎県教育委員会が主催する「令和3年度研究指定等にかかる研究報告会」にて、本校 WWL 推進室長の鳥居正洋教諭が実践報告を行った。オンラインによる約100名の参加者へ、WWL 事業における探究学習プログラムやループリック等を用いた評価などについて説明し、広く成果を普及した。参加者からのフィードバックの一部を下に記す。

- ・探究活動を様々な授業の中にも取り入れていくことで、生徒にとって SDGs を考えるハードルが下がり、自然なものとして考えることにつながるのではないかと思います。
- ・探究の班を SDGs のテーマで分けないところが参考になりました。違う武器を持った班員で協力し合い、よりよい成果を出す、素晴らしいと思いました。
- ・緻密な計画のもと、より高度な力を身につけるためのカリキュラムがしっかりしていると感じました。大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・素晴らしい取組で、どうやったらここまで到達できるのでしょうか……。理念の組み上げ、職員の組織化、研究時間の確保、校外機関との連携、どれをとってもすばらしかったです。SSH も頑張らなければと思いました。
- ・生徒の取り組みの姿勢や意欲にただただ驚きました。自分達でテーマや詳細な内容を考え、高校生のうちから論文が書けるというのは、大学進学を考える生徒たちにとってはいい経験になるだろうと感じました。またレベルの高い指導のためには、先生方の準備が不可欠だろうと思いま

す。今回の報告会に参加できて、大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ・「総合的な探究の時間」が目指すものや評価の実施方法、班編成の意図など大変参考になりました。今年度、総探の目的がわかっていないまま計画立てていく状況だったのですが、長崎東高校さんの取り組みをきいて非常に明確になった気が致します。自校風にアレンジして実行していきたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・校内での体制と連携外部機関とのコンソーシアム体制がしっかりできていると思いました。また、様々なグローバルな課題に生徒が SDGs の観点から取り組んでいて、学校としても成果を上げているなと思いました。私自身も SGH 時代に在籍していたので、こういった取り組みを本校でも生かしていきたいと思います。
- ・全ての教育活動で7つの力を育成していこうという目標設定が素晴らしいなと思いました。また、ルーブリックの作成などまだまだ本校でできていない点も非常に参考になりました。今後の活動に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・大学や多くの企業との連携ができている点が魅力的であり、文理融合班で探究しているのも、本校にとっての今後のヒントになった。
- ・ルーブリックによる目指す生徒像の明確化、生徒のメタ認知や自己肯定感の高まりなど大変有意義な実践報告だった。
- ・これまでの SGH の蓄積もあって大変素晴らしい取り組みがなされてました。今回の発表を参考にさせていただき、本校の「総合的な探究の時間」においても、生徒たちにより実践的な研究活動を目指させたいと思いました。
- ・なぜ探究を行うのか、学ぶ意義をしっかりと伝え、目標とする人材育成を計画的に立てられていて非常に参考になりました。
- ・本校の探究活動が「地域」に重点を置いていることもあるので、「国際理解(グローバル)」分野での探究の在り方を知る貴重な機会となりました。また、ルーブリックも5段階にわたって丁寧かつ分かりやすく作成されており、参考にしたいと思いました。ありがとうございました。
- ・テーマ及び内容の質の高さに驚きました。高い知識・技能が定着しているからこそ成し得るのだらうと感じました。普通科の生徒が商業科目の「マーケティング」や「マネジメント」を学ぶとおもしろいビジネスプランが創出されそうだと感じました。
- ・ルーブリックは評価設定の上で大変参考になりました。
- ・探究の時間だけでなく、教科にまたがった指導、文理の括りを外れた班編成を行うことで、生徒の視野が広がっていくのだと感じました。

第3章 高校生国際会議の計画

(1) 第1回WWL長崎フォーラム

R5年度の開催を計画している高校生国際会議「Nagasaki Peace & Innovation Forum」に向けて、本校の高校3年生全員と県内外の連携校8校29名が参加した本フォーラムを7月5日にハイブリッド方式で開催した。プログラムの内容や当日の詳細は第2章(2)④の項で記載している。

【令和3年度「WWL長崎フォーラム」実施要項】

- 1 目的：
 - ①WWL連携校11校からの代表生徒が一堂に会し、探究学習の成果を普及する機会とする。
 - ②他校の生徒の発表やお互いの交流をととして研究や学びの意欲を喚起する。
 - ③探究活動をととして、どのような資質や能力が向上しているかを考察する。また、将来の大学での学びや社会生活において、どのように研鑽を積んで活躍したいかについて討論し、その内容を全体で共有する機会とする。
 - ④R5年度の国際会議（Nagasaki Peace & Innovation Forum）、次年度のプレ大会へのステップとする。
- 2 日時・会場： 令和3年7月5日（月） 長崎東中高 視聴覚教室、会議室
- 3 対象生徒：
長崎東中・高等学校： 高3普通科・国際科
県内連携校： 長崎西、長崎南、諫早、大村、佐世保北、杵岐、対馬
国内連携校： 三島北、立命館宇治、広島市立舟入、広島女学院
- 4 出席者： 県教委、カリキュラム・アドバイザー、WWL運営指導委員（外部評価委員）、高校教員等
- 5 発表：
 - (1) 各校からの参加（発表）は1校から1グループのみとし、スライド発表かポスター発表のどちらかに出場できることとする。ただし、長崎東からは普通科と国際科からそれぞれの発表に出場する。
 - (2) スライド発表、ポスター発表とも使用言語は英語、日本語どちらでも可とする。
 - (3) 各発表を審査し、後日、「優秀賞（1位相当）」「優良賞（2位相当）」「奨励賞（3位相当）」のいずれかの賞を授与する。優秀賞と優良賞の授与数は1つとは限らない。一定の審査基準を満たせば、複数の発表者に授与することとする。
 - (4) 発表は、下記のうちいずれかとする。
ア 会場（長崎東）での発表 ← ○県内連携校 ×県外連携校
イ 各校での発表（オンラインによるライブ発表） ← ○県内連携校 ○県外連携校
ウ あらかじめ録画した映像を主催者へ事前提出 ← ○県内連携校 ○県外連携校
 - (5) 発表時間は、スライド発表は12分、ポスター発表は10分とする。
 - (6) スライド発表への質疑応答は行わない。
 - (7) ポスター発表の質疑は3分とし、使用言語は英語、日本語どちらでも可とする。
 - (8) 発表時間を過ぎても発表を続けることはできるが、減点対象となる。

6 工程表

- 6月4日（金）参加校締切
- 9日（水）日程確定
- 11日（金）審査員、ファシリテーター、講評者の確定
- 14日（月）参加校へ連絡、微調整
- 16日（水）職員会議で提示

7 当日の日程（まだ未確定です。参加チームが最大数の場合で策定しています。）

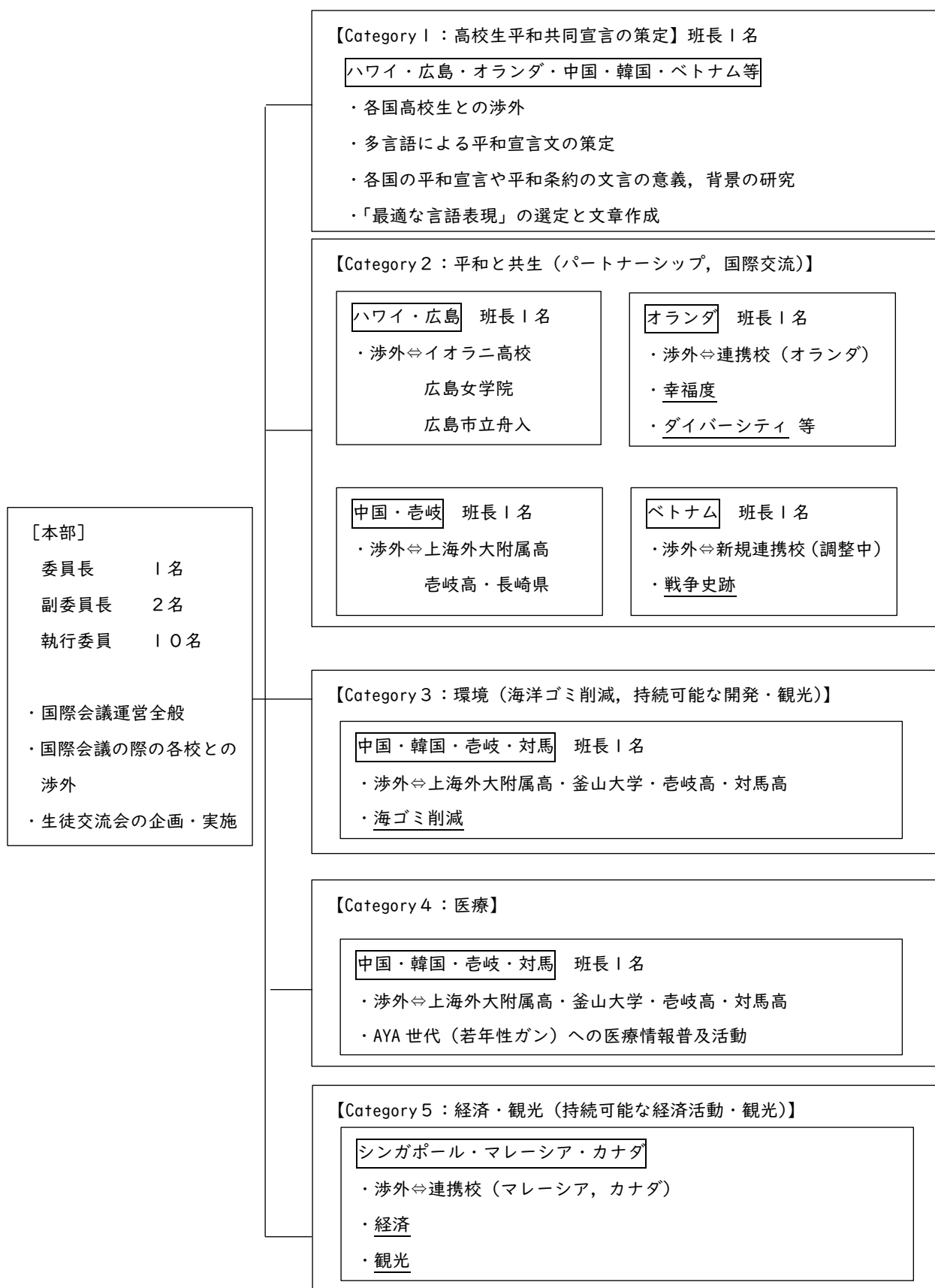
準備・練習 8:40～

受付 10:00～10:30

視聴覚教室（メイン会場1）	会議室（メイン会場2）	高3教室（サブ会場）
普通科の論文展示 国際科のグループレポート展示	普通科の論文展示 国際科のグループレポート展示	
10:30～10:50 ★開会行事 （各クラス5名+連携校） ★ スライド発表（メイン発表） 発表12分、質疑なし ①11:10～11:22（1～4組参観） ②11:25～11:37（1～4組参観） ③11:40～11:52（1～4組参観） ④12:04～12:16（1～4組参観） ⑤12:18～12:30（1～4組参観）	★ ポスター発表（メイン発表） 発表10分、質疑3分 ①11:10～11:23（1～4組参観） ②11:25～11:38（1～4組参観） ③11:40～11:53（1～4組参観） ④12:02～12:15（1～4組参観） ⑤12:17～12:30（1～4組参観）	開会行事の視聴 （遠隔） ● 1～4組希望班発表（サブ発表） （5～7組は教室でメイン発表を 遠隔で視聴するか1～4組の発 表をリアルで参観する） 発表10分、質疑3分 ①11:10～11:23（5～7組参観） ②11:25～11:38（5～7組参観） ③11:40～11:53（5～7組参観） ④12:02～12:15（5～7組参観） ⑤12:17～12:30（5～7組参観）
★ スライド発表（メイン発表） 発表12分、質疑なし ⑥13:15～13:27（5～7組参観） ⑦13:30～13:42（5～7組参観） ⑧13:45～13:57（5～7組参観） ⑨14:10～14:22（5～7組参観） ⑩14:25～14:37（5～7組参観）		● 5～7組希望班発表（サブ発表） （1～4組は教室でメイン発表を 遠隔で視聴するか5～7組の発 表をリアルで参観する） 発表10分、質疑3分 ①13:15～13:28（1～4組参観） ②13:30～13:43（1～4組参観） ③13:45～13:58（1～4組参観） ④14:10～14:23（1～4組参観） ⑤14:25～14:38（1～4組参観）
★代表生徒による パネルディスカッション 14:50～15:35 （各クラス5名+連携校） ★講評 15:35～15:45		遠隔で視聴
	16:00～17:00 WWL運営指導委員会	

15:45～16:15 撤収・振り返り、16:15～SHR、（補習・講座）

(2) 組織図



構想計画に基づいて生徒 60 名による実行委員会、および海外共同探究チームを組織し、第 1 回（10 月）と第 2 回（3 月）の実行委員会を実施した。次年度は高校 2 年生を中心に、渉外・運営・会場設営・ICT 機材・記録・平和宣言起草などの具体的な業務分担や海外共同探究を進めていきたい。また、卒業生にメンターとして準備や当日の進行に協力してもらう体制を構築することを計画している。

（３）他の拠点校等が開催する国際会議への参加

連携校である立命館宇治高校や三島北高校が開催する国際会議や、米国ミドルベリー国際大学院大学のジェームズ・マーティン不拡散研究センターが主催する CIF（クリティカル・イシューズ・フォーラム）等の国際会議にオブザーバー参加を含む延べ 19 名の生徒が参加し、国際会議の運営について学んだ。

3/30～3/31 には、株式会社 LbE ジャパンと共同開発した「WWL ハワイ平和探究プログラム」に、上述の国際会議生徒実行委員 20 名が参加し、平和宣言起草に向けた活動や英語での会議運営について学んだ。

次表は国際会議に向けたイベントへの参加をとりまとめたものである。主なイベントの詳細は、ワールドワイド・レポートを次ページ以降に掲載する。

【国際会議に向けたイベントへの参加】※参加数は生徒のみ計上（除教員）、全てオンライン参加

期日	主催	講座・研修名、講師等	参加数
R2. 10 ～ 4/17	ミドルベリー国際大学院大学ジェームズ・マーティン不拡散研究センター	2021 CIF 「クリティカル・イシューズ・フォーラム」	2 名
7～8 月	公益財団法人 長崎平和推進協会	Hawaii Study Tour	2 名
7/8 11/12 12/20	在福岡米国領事館 長崎県公立大学法人	外交官セミナー 講師 ジョン・C・テイラー（在福岡米国領事館 首席領事）、ユキ・近藤・シャー（在福岡米国領事館広報担当領事）	1 名
7/31 8/1	立命館宇治中学校・高等学校(WWL コンソーシアム構築支援事業拠点校)	第 4 回全国高校生 SR サミット FOCUS	4 名
9/17 ～19	静岡県立三島北高等学校(WWL コンソーシアム構築支援事業拠点校)	2021 FALCon 高校生国際会議@ Mishima	8 名
2/13 ～ 2/20	立命館宇治中学校・高等学校(WWL カリキュラム開発拠点校)	グローバルユースフェア～SURVIVE！～2022	2 名

3/30 ～31	長崎東高等学校 LbE Japan	Nagasaki Higashi High School×LBE HAWAII WWL ハワイ平和探究プログラム	20 名
-------------	----------------------	---	------



国際フォーラム（C I F）で学校優秀賞獲得！

4月17日に、アメリカのミドルベリー国際大学院に設置されているジェームズ・マーティン不拡散研究センターが主催するC I F（クリティカル・イシューズ・フォーラム）に、高校3年生の金巻凜さん、堀川彩音さんが参加しました。アメリカ、ロシア、日本の高校生と、進行役



のアメリカ人合計約100名が、オンラインによる専門家の講演・研究発表・グループセッションを行い、核軍縮に関する見識を深めました。

昨年よりJack先生のサポートの下、核問題についてのプロジェクト学習に参加してきたことから、外務省より「ユース非核特使」を委嘱され、核不拡散や核軍縮について討論するグループセッション（2回実施）にも積極的に参加しました。堀川さんが、SGHやWWLの課題研究で取り組んだ「経済面から考える核兵器の問題」について、2人で事前に発表動画を提出し、高い評価をいただきました。

中満泉国連事務次長のビデオメッセージ、元カリフォルニア州知事 Jerry Brown氏による基調講演もフォーラムに花を添えました。

2021FALCon 高校生国際会議@Mishima

Crisis に負けない持続可能な社会づくりを目指して ～ SDGs の視点からの多面的なアプローチ ～

9月17日(金)から19日(日)まで2021FALCon 高校生国際会議(拠点校: 静岡県立三島北高等学校)が開催され、東高2年生の1班4名(木場春賀さん・岩崎史佳さん・溝口花恋さん・伊東香乃さん)がオンラインで参加し英語によるプレゼン発表等を行いました。1年生4名もオブザーバーとして参加しました。

- 17日(金) 開会式 基調英語講演(常葉大学外国語学部 Hourdequin Peter 准教授)
 18日(土) 探究活動における課題研究成果の英語プレゼンと専門家からのフィードバック
 混成分科会ディスカッション 専門家によるミニ講義
 19日(日) 会議の成果の動画を作成 成果動画の上映会 閉会式・記念写真撮影



FALCon は「ふじのくにアドバンスド・ラーニング・コンソーシアム」の頭文字を繋げたもので、三島北高校は長崎東高校と同じく WWL コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定されています。会議には、海外4か国(シンガポール・アメリカ・韓国・オーストラリア)5校、国内連携校5校の高校生約50名が参加しており、SDGsの視点から世界の諸問題を相互に理解し合い、グローバル課題について分析・解決する能力を涵養するものでした。全般的に生徒の主体的な活動が多く、全て英語で活発に意見交換が行われました。

東高の研究テーマは「Can gum with Xylitol improve oral hygiene in developing countries?」。発表の要旨は次のとおりです。(勿論、発表や質疑応答は全て英語)

「一度の歯磨きで6Lもの水を使うと言われており、水不足の発展途上国では多量の水確保は難しい。よって、水を使わずに口腔衛生を維持する方法としてガムを提案する。ガムを噛むことで唾液の分泌量が増え、その唾液が虫歯から歯を守る。途上国の人がガムを飲み込む危険性があるので、ガムは小麦粉でつくり、ミュータンス菌等の繁殖を抑えるキシリトールを加える。→ガムの作成(実験)、実験結果の検証、市販のキシリトールガムとの効果の比較… 今後の課題は、1. ガム作成で多くの水を使用したのを減らすこと 2. 実験結果を数値化やグラフ化をすることで科学的な分析を目指す等」

東高の発表は、会議のテーマに沿ったSDGsの視点から多角的な分析と探究的な考察を重ねたものであり、わかりやすい取り組みでした。専門家からも研究内容やプレゼン能力が高く評価されていました。

最後に、班のリーダー・木場さんの感想は、

「私たちは探究活動で取り組んでいる研究を発表して、多くの課題が見つかりました。参加者から貴重なご意見を伺い、専門家の方からは具体的なアドバイスをいただくことができたので、それらを一つ一つ解決してより良い研究になるよう頑張ります。また、プレゼン力や英語力も向上させたいと思います。海外の国の現状や問題点、それに対する解決策について現地の高校生と話し合うことで視野が広まり、私たちの未来について真剣に考えて危機意識を強くもつようになったことも収穫でした。個人的には、ネイティブの英語の発音は流暢で聞きやすかったです。動画を上手く作成できたことも自信になりました。」



①開会宣言ムービー



②東高のプレゼン発表



③他校のプレゼン視聴



④混成分科会

第4章 評価（目標の進捗状況、成果・検証）

（1）生徒の変容

①民間テスト・自己評価

SGH 指定時（H27～R1）からの変容を分析するために、H28 から同一の民間テスト（ベネッセコーポレーションが実施している批判的・協働的・創造的思考力を測る GPS-Academic（Global Proficiency Skills）テスト）を用いている。

※H28～R1 は SGH 指定時、R2 は WWL カリキュラム開発拠点校指定（予算措置なし）

R3 は WWL 拠点校指定（予算措置あり）

※GPS テストは高1・高2とも12月に受検し、A評価が「高校卒業レベル」に相当する。

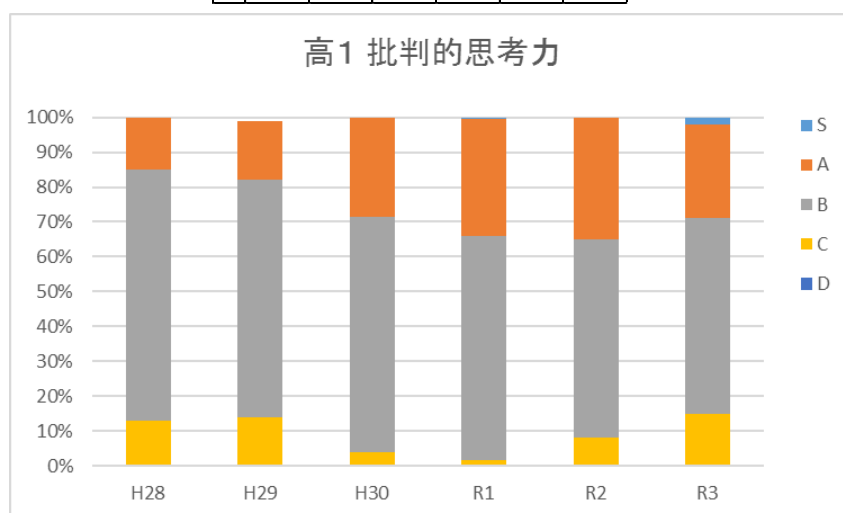
【高1】

高1						
批判的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	0%	0%	0%	0%	0%	2%
A	15%	17%	28%	34%	35%	27%
B	72%	68%	68%	64%	57%	56%
C	13%	14%	4%	2%	8%	15%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

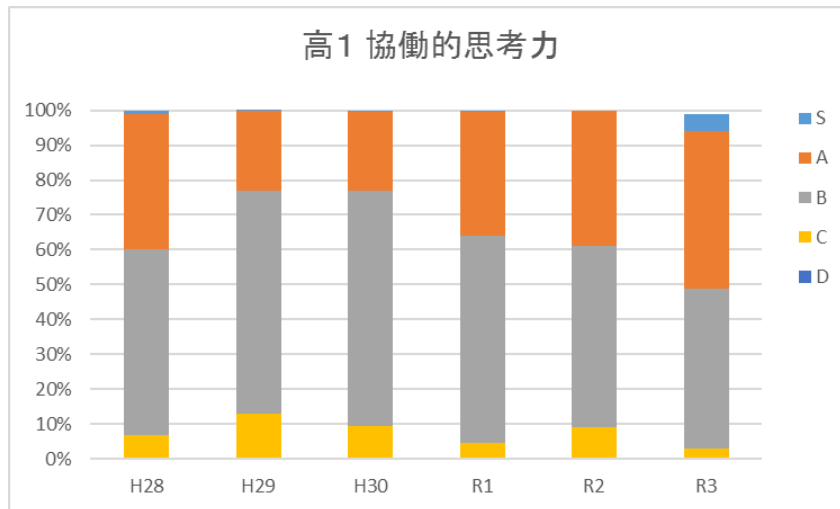


「批判的思考力」においては、これまで0%であったS評価が2%（5名）であったことは評価できる。批判的思考力の評価は、「情報を抽出し吟味する力」や「論理的に組み立てて表現する力」が基準となっており、次項の全国との比較でも高いことが示されている。一方、C評価が15%と6年間で最大となっていることは、次年度以降の課題である。特に、C評価の生徒では「情報を抽出し吟味する力」が弱いというデータが出ているため、各教科で改善を図りたい。

高1						
協働的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	1%	1%	0%	0%	0%	5%
A	39%	23%	23%	36%	39%	45%
B	53%	64%	68%	60%	52%	46%
C	7%	13%	9%	4%	9%	3%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

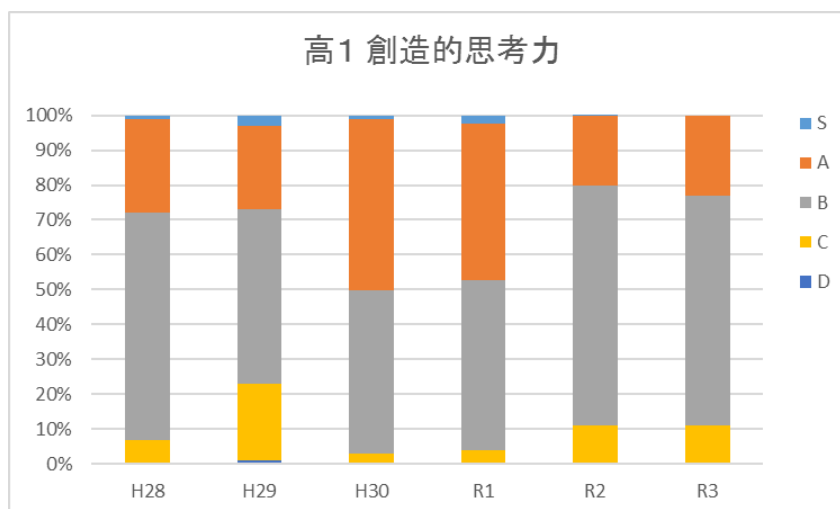


「協働的思考力」では、S評価・A評価ともに過去最高の結果である。本年度はグループによる探究学習を推進し、150を超える外部機関とフィールドワーク等の連携を実施したことによるものと考察する。

高1						
創造的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	1%	3%	1%	2%	1%	0%
A	27%	24%	49%	45%	20%	23%
B	65%	50%	47%	49%	69%	66%
C	7%	22%	3%	4%	11%	11%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する
問題をみだし解決策を生み出す



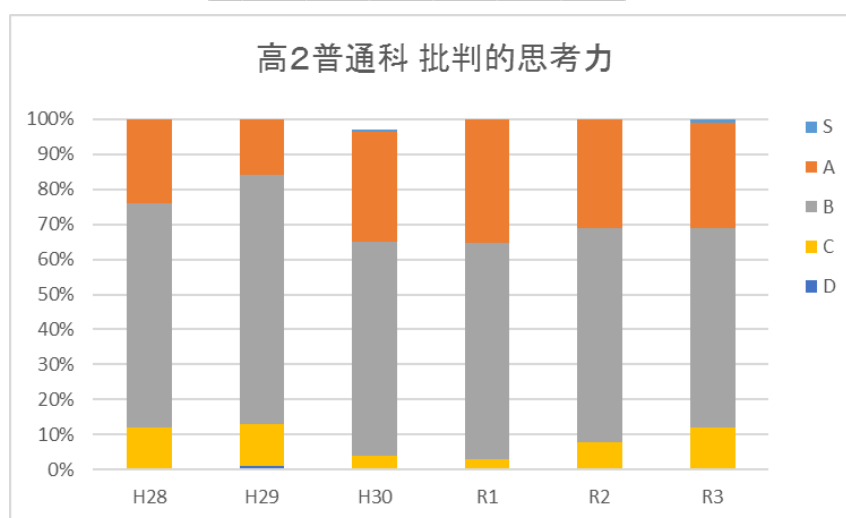
「創造的思考力」では、SGH 指定時の4・5年目であるH30とR1のA評価と比較すると、R2とR3

は 20%以上低下していることがわかる。この結果は、コロナ禍によるペアワークやグループ活動が昨年度より全ての教育活動で大きく制限されていることに起因していると考えられる。次年度は、遠隔授業においても、自分とは異なる新しい視点を共有する活動や、答えが1つではない問いの設定など、さらに授業改善を図りたい。

【高2 普通科】

高2 普通科						
批判的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	0%	0%	1%	0%	0%	1%
A	24%	16%	32%	35%	31%	30%
B	64%	71%	61%	61%	61%	57%
C	12%	12%	4%	3%	8%	12%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：
情報を抽出し吟味する
論理的に組み立てて表現する

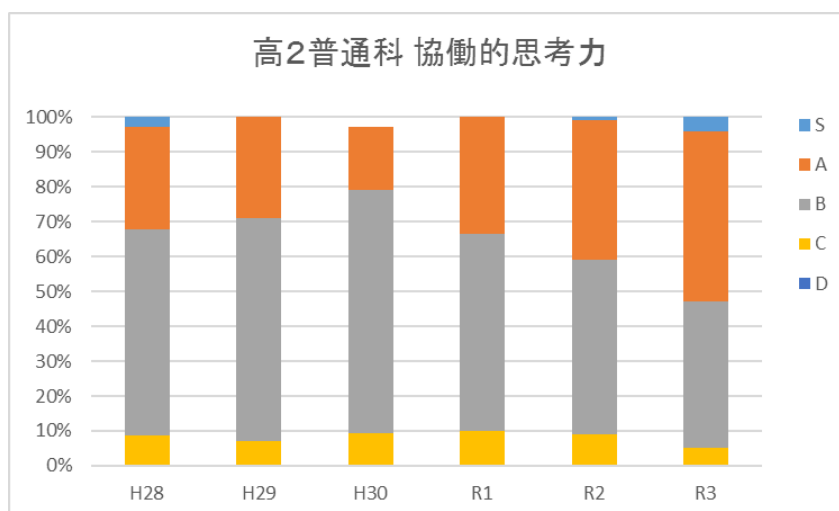


高校2年生は普通科・国際科ともに1年次において、第2章（1）「カリキュラム開発」の項で記載したとおり、R2年度より新しく運用したカリキュラム下で学んでいる。また、R3年度はH28～R2とは異なり、週35単位から週33単位に減じ、週2時間は学年裁量で探究学習や興味関心のある教科・科目を深く学んだり、復習することができる「主体的な学びの時間」として活用している。上記の「批判的思考力」の表からは、過去5年間と比較して特筆すべき有為差は見られない。

高2 普通科						
協働的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	3%	0%	0%	0%	1%	4%
A	29%	29%	18%	34%	40%	49%
B	59%	64%	70%	56%	50%	42%
C	9%	7%	9%	10%	9%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

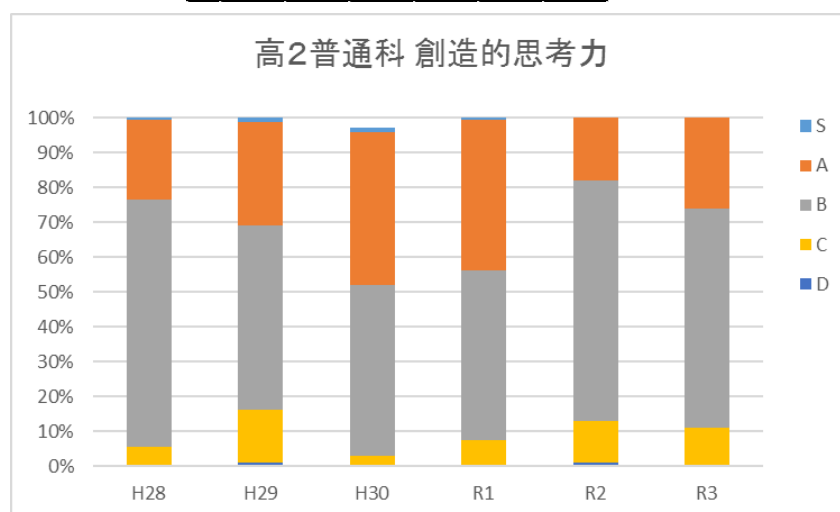


次に、「協働的思考力」について分析すると、過去5年間と比較すると、S 評価（4%）やA評価（49%）の割合が高いことがわかる。また、C評価（5%）の割合が最も少なくなっている。このことは、本年度より初めて全クラスを文理を隔てない編成にしていることや、150 を越える多様な外部機関と連携し、インタビューやアンケート調査などを実施したことが要因として考えられる。コロナ禍にもかかわらず、探究や各教科学習においてグループやペアでの意見交換を適時実施できたことも良好な結果につながったことと考察する。

高2 普通科						
創造的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	1%	2%	1%	1%	0%	0%
A	23%	30%	44%	43%	19%	26%
B	71%	53%	49%	49%	69%	63%
C	5%	15%	3%	8%	12%	11%
D	0%	1%	0%	0%	1%	0%

創造的思考力：

情報に関連づける・類推する
問題をみいだし解決策を生み出す

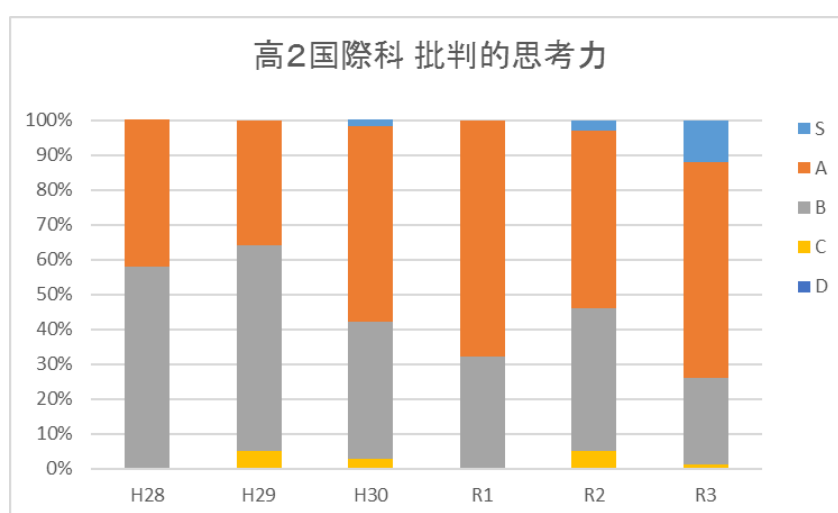


「創造的思考力」については、SおよびA評価は26%であり、6年間で4番目の比率である。昨年度（R2）と比較すると上昇してはいるものの、SGH 指定時4年目と5年目はそれぞれ45%と44%であることを考えると、ここ2年間は低下していると判断せざるを得ない。運営指導委員からも指摘があったが、生徒自己評価ルーブリック WWL 7の「①課題発見・解決力」や「②情報分析・活用力」におけるS評価の文言「実現可能性」が生徒の自由な発想を妨げている可能性があるため、次年度当初にはルーブリックの改訂を図りたい。また、学校設定科目「国語探究」「数学探究」「英語探究」をはじめ、各教科の授業においても探究的学びを推進し、答えが一つではない問いを提示したうえで討論するなどの手法を取り入れて改善を図りたい。次年度に2回実施を予定している授業改善週間を統括する図書・研修部とも職員研修や授業改善に向けた取り組みについて連携していきたい。

【高2国際科】

高2 国際						
批判的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	0%	0%	3%	0%	3%	12%
A	43%	36%	57%	68%	51%	62%
B	58%	59%	39%	32%	41%	25%
C	0%	5%	3%	0%	5%	1%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：
情報を抽出し吟味する
論理的に組み立てて表現する

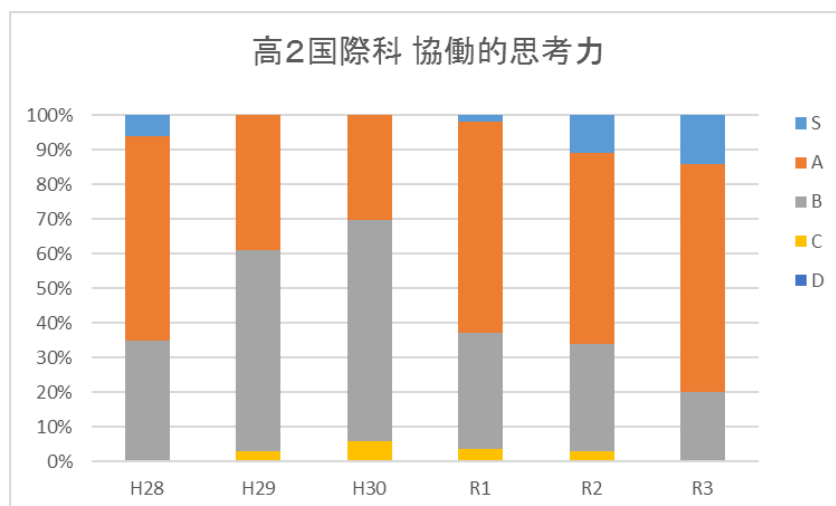


高校2年国際科2クラスの「批判的思考力」は、過年度と比較して非常に高いことが示されている。国際科に特徴的なカリキュラムとして、2つの学校設定科目「サイエンス特論」と「時事英語」があり、実験・考察、文献調査・レポートなどの学習活動が展開されている。探究学習の学年担当者は、WWL プログラムではSDGsを軸に地球規模の課題について様々な観点から考察しようという取り組みがあり、従来よりも文理を融合した探究学習が推進されていることも要因の一つではないか、と考察している。

高2 国際						
協働的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	6%	0%	0%	2%	12%	14%
A	59%	40%	32%	61%	55%	66%
B	35%	58%	64%	34%	31%	20%
C	0%	3%	6%	3%	3%	0%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する
社会に参画し人と関わりあう

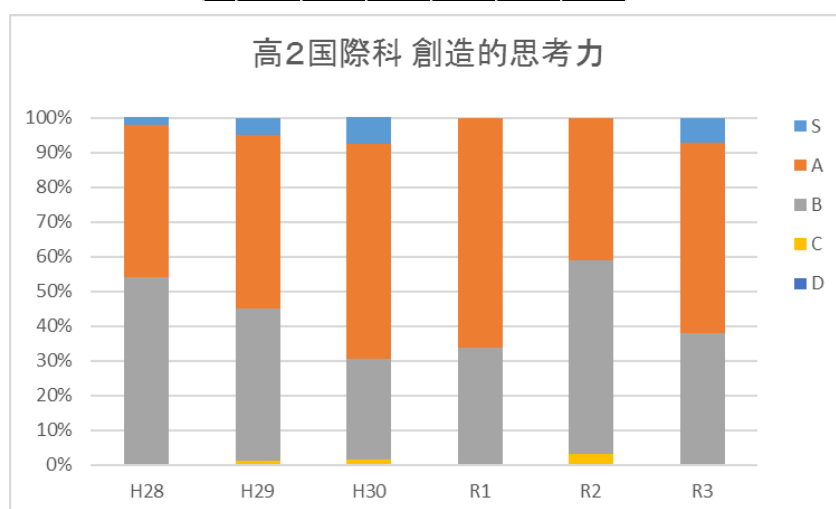


普通科と同様に、「協働的思考力」のS評価（14%）とA評価（66%）の割合が過去最高となった。要因のひとつとして、R2年度からSDGsを軸とした探究学習を推進したことや、ザンビア、ニジェール、エチオピアといった多様なフィールドをはじめ、食品ロス、教育、口腔ケアなど多岐にわたる課題について班員と協力して調査活動を実施したことが挙げられる。また、従来よりも官公庁・企業・NPO法人との連携が増えてきたことによって、「協働的思考力」の評価項目のひとつである「社会に参画し人と関わりあう」態度が涵養されているのではと考える。

高2 国際						
創造的思考力						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
S	3%	5%	9%	0%	0%	7%
A	44%	50%	62%	66%	41%	55%
B	54%	44%	29%	34%	56%	38%
C	0%	1%	1%	0%	3%	0%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報に関連づける・類推する
問題をみいだし解決策を生み出す



「創造的思考力」におけるA評価以上の割合は、本年度は62%（S評価7%、A評価55%）であった。ベネッセコーポレーションによると、「批判的思考力」や「創造的思考力」は教科学力と中程度の相関があるとのことである。高1次・高2次ともに週35単位から週33単位の教育課程を運用しており、国語・英語・数学を中心に単位数を減じてはいるものの、教科学力は高く保たれていると判断できる。このことは、本校がSGH指定時より、アクティブ・ラーニング型の授業開発を実践してきており、主体的な学びを推進していることが、国際科の生徒にとっては良い影響を与えているものと考えられる。

普通科とはやや相反する結果が見られたことは、総じて国際科に教科学力が高い生徒が多く在籍することも要因であると考察する。

【全国集計との比較】

次にGPSテストの高校1年生全国集計と本校の高校1年生を比較する。

※黒塗の評価（S）は0%ではなく、評価（S）自体が存在しないことを示す

高1 全国

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.0%	4.4%		2.7%	7.2%		0.4%	1.4%	
A	21.9%	19.9%	10.6%	37.7%	25.5%	24.3%	17.7%	12.4%	13.5%
B	54.1%	30.5%	55.1%	51.6%	39.6%	64.9%	63.4%	36.7%	63.0%
C	22.8%	35.9%	33.9%	8.0%	22.7%	10.6%	18.4%	42.5%	23.0%
D	0.1%	9.3%	0.4%	0.1%	5.1%	0.3%	0.1%	7.1%	0.4%

長崎東 高1

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.8%	5.5%		5.2%	11.1%		0.0%	1.8%	
A	26.9%	27.3%	12.2%	45.4%	35.1%	23.6%	22.5%	15.1%	16.6%
B	56.1%	28.0%	60.5%	46.1%	39.5%	68.3%	66.4%	43.5%	64.6%
C	14.8%	33.6%	26.9%	3.3%	12.5%	7.7%	11.1%	33.9%	18.5%
D	0.4%	5.5%	0.4%	0.0%	1.8%	0.4%	0.0%	5.5%	0.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

SおよびA評価に関して、ほぼ全ての項目で全国集計よりも高い数値である。特に太枠で示しているように、「情報を抽出し吟味する」力におけるS評価とA評価の割合はそれぞれ5.5%（全国集計

4.4%)、27.3%（全国集計 19.5%）であり、いずれも高い数値を示した。また「他者との共通点・違いを理解する」力における S 評価と A 評価の割合はそれぞれ 11.1%（全国集計 7.2%）、35.1%（全国集計 25.5%）であった。こうした結果は、WWL 事業で開発した本校独自の生徒自己評価ルーブリック「WWL 7」に基づく調査とも相関が見られた。「WWL 7」における変容は次項に記述する。

高 2 全国

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.6%	7.1%		3.9%	10.7%		0.8%	3.1%	
A	28.0%	24.7%	11.8%	42.3%	29.2%	24.5%	23.8%	17.7%	14.8%
B	49.8%	29.8%	54.8%	45.8%	35.9%	63.7%	58.8%	36.2%	63.6%
C	20.2%	30.3%	32.4%	7.8%	19.3%	11.3%	16.3%	36.1%	20.7%
D	0.4%	8.2%	0.9%	0.2%	4.9%	0.5%	0.3%	6.9%	0.9%

長崎県 高 2

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	3.9%	9.8%		7.1%	18.4%		2.0%	5.1%	
A	39.6%	34.5%	22.4%	53.7%	33.7%	32.9%	34.9%	21.6%	25.1%
B	47.5%	32.2%	57.3%	35.7%	32.5%	61.2%	55.7%	42.7%	63.9%
C	9.0%	20.8%	20.0%	3.5%	12.9%	5.9%	7.5%	27.5%	10.6%
D	0.0%	2.7%	0.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	3.1%	0.4%

次に、高校 2 年生の結果を全国集計と比較すると、すべての項目で S および A 評価の割合が高いことがわかる。高校 2 年生は昨年度新しく導入した学校設定科目 IGR を高 1 次に履修し、本年度は高度な課題研究を推進するために、これまでの週 35 単位から週 33 単位とし、カリキュラムの枠組みの中で外部機関と連携している。また文理を分けないクラス編成の導入や、「国語探究」「数学探究」「英語探究」「サイエンス特論」「中国語」など幅広く学べる新しい教育課程の下、グローバル人材に求められる思考力が身につけてきたことが考察できる。

長崎東 R2 高1

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみいだし解決策を生み出す
S	0.0%	4.9%		0.0%	9.4%		0.8%	3.0%	
A	34.7%	30.2%	9.1%	38.9%	32.5%	4.2%	19.6%	21.9%	6.0%
B	57.4%	43.4%	69.8%	52.5%	34.7%	76.6%	68.7%	45.3%	68.7%
C	7.9%	19.2%	21.1%	8.7%	20.4%	19.2%	10.9%	28.7%	24.9%
D	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

次に、前ページの表「長崎東高2 (R3)」と上記の表「R2 高1」を比較し、1年間の経年変容を分析する。昨年度(高1次)の受検結果からの変容からも、すべての評価項目において、1年前よりも思考力が伸びていることがわかる。特に、「論理的に組み立てて表現する力」(A評価 9.1%→22.4%)、「社会に参画して人と関わりあう力」(A評価 4.2%→32.9%)、「問題をみいだし解決策を生み出す」(A評価 6.0%→25.1%)と大きな伸びを示している。

※参考資料：ベネッセコーポレーションによるCAN DO（ルーブリック）

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	☐ 目的に応じて自ら必要な資料を探し出し、情報を取り出すことができる ☐ 情報の成り立ち・背景を踏まえて、内容の正しさを判断できる	☐ 知識(教養)と資料の情報を組み合わせ、説得力と納得感のある主張(結論)とその根拠を提示できる ☐ 効果的な工夫された表現を用いて、主張とその根拠とをつなぐ説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを客観的に理解し、常にそれらを尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを認めつつアイデアを交差して建設的に合意形成できる	☐ 資料の範囲を超えて、身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる ☐ 問題解決の主体者として、他者と刺激を与えあいアイデアを交差させながら解決策を検討できる	☐ 知識(教養)と資料とを組み合わせ、問題を特定し、複数の解決策を提案・比較検証したうえで、最善の解決策を選択できる ☐ 情報の成り立ち・背景も踏まえて問題を一般化し、他の事例の解決に応用できる	☐ 資料の範囲を超えて、問題を構造化して解決すべき課題を設定し、効果的で実現可能性が高い解決策を提案できる ☐ 解決策を問題の背景や経緯も踏まえて一般化し、他の事例に適切に応用することができる
A	☐ 提示された資料から、目的に応じて情報を取り出すことができる ☐ 情報の正しさを、客観的に評価できる	☐ 資料の情報の範囲内で、説得力のある主張(結論)やその根拠を提示できる ☐ 主張とその根拠とを結びつけた、論理的な説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを理解し、必要な場面でそれらを尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを指摘しながら、一定の条件下で合意形成できる	☐ 資料全体に目を配り、必要に応じて身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる ☐ 問題の解決に主体的に参画し、他者とアイデアを出し合いながら解決策を検討できる	☐ 資料をもとに、問題を特定し、複数の解決策を比較検証したうえで、よりよい解決策を選択できる ☐ 問題を一般化し、他の事例の解決に応用できる	☐ 問題の本質を的確にとらえ、解決すべき課題を設定し、解決の条件をすべて満たした解決策を提案できる ☐ 解決策を一般化し、他の事例への応用を検討することができる
B	☐ 何らかの指示に従って情報を取り出すことができる ☐ 情報を分類したり区別したりして、評価できる	☐ 資料の情報の範囲内で、適切な主張(結論)や根拠を提示できる ☐ 主張とその根拠とを結びつけた説明ができる	☐ 異なる文化圏における信念や価値観の違いを把握し、自分なりの観点で尊重できる ☐ 相互のアイデアを共有し、違いを確認することができる	☐ 資料の問題について、身近なこととの共通点に目を向けることができる ☐ 問題解決の実行者を支援する立場で、他者とともに解決策を検討できる	☐ 条件にそって、よいと思う解決策を選択できる ☐ 提示された事例と他の事例との関連性を指摘できる	☐ 問題の枠組みを把握し、解決のための条件を満たした解決策を提案できる ☐ 解決策の構造を把握し、その実効性を検討できる
C	☐ 指導に従って、情報を取り出したり、評価したりすることができる	☐ 何らかの主張(結論)や根拠を提示できる ☐ 不明確ながらも、主張とその根拠とを結びつけようとする	☐ 異なる文化圏には異なる信念や価値観があることを知り、指導に従ってそれを尊重できる ☐ 指導に従って、相互にアイデアを共有できる	☐ 資料の問題について、その解決の必要性や、他者と協働することの必要性を理解できる	☐ 指導に従って、何らかの解決策を選択したり、他の事例との関連性を理解したりすることができる	☐ 問題の構成要素を把握し、解決のための条件を一部満たした解決策を提案できる ☐ 解決策の要素を部分的に取り出し、その実効性を検討することができる
D	☐ 自分なりの観点で、情報を取り出したり、評価したりする	☐ 無解答または評価外	☐ 異なる文化圏には異なる信念や価値観が存在することを理解できる ☐ 相互にアイデアを共有することの必要性を理解できる	☐ 無解答または評価外	☐ 自分なりの観点で、何らかの解決策を選択したり、関連性をみだしたりすることができる	☐ 無解答または評価外

【WWL 7に係る生徒の変容】

次に WWL 事業で新たに設定した 7 つの資質・能力、マインドセット（WWL 7）に関する生徒の自己評価結果について検証する。ここでは、新カリキュラムによる教育活動を経験してきた高 1 と高 2 に焦点を当てることとする。

■高 1

WWL1	課題発見・解決力		
高 1	1 学期	2 学期	3 学期
S	4%	3%	5%
A	32%	44%	58%
B	44%	44%	34%
C	20%	8%	3%
D	0%	1%	0%

WWL 2	創造力		
高 1	1 学期	2 学期	3 学期
S	5%	6%	6%
A	20%	22%	35%
B	51%	55%	52%
C	22%	12%	6%
D	2%	5%	0%

WWL 3	情報分析・活用力		
高 1	1 学期	2 学期	3 学期
S	3%	5%	9%
A	25%	36%	39%
B	52%	48%	45%
C	18%	9%	7%
D	2%	1%	0%

WWL 4	自己表現力		
高 1	1学期	2 学期	3 学期
S	6%	10%	12%
A	25%	32%	26%
B	54%	46%	54%
C	12%	7%	7%
D	3%	3%	1%

WWL 5	協働性		
高 1	1学期	2 学期	3 学期
S	12%	19%	22%
A	44%	44%	47%
B	37%	35%	30%
C	6%	2%	1%
D	1%	0%	0%

WWL 6	学ぶ意欲		
高 1	1学期	2 学期	3 学期
S	5%	5%	5%
A	16%	19%	28%
B	49%	45%	50%
C	27%	26%	15%
D	3%	4%	3%

WWL 7	地球市民性		
高 1	1学期	2 学期	3 学期
S	7%	8%	11%
A	18%	20%	25%
B	39%	48%	45%
C	33%	21%	18%
D	3%	2%	1%

ベネッセコーポレーションの GPS テストでの結果と同様に、WWL 3「情報分析・活用力」の S 評価と A 評価の割合が 1 年間で上昇していることが示された。特に、2 学期と 3 学期では、探究学習での文献調査やアンケート分析を基に、研究レポートの作成や研究発表を行っていることによるものと考えられる。また、GPS テストで評価が高かった協働的思考力についても、WWL 5 との相関がみられる。約 70% の生徒が S 評価（22%）または A 評価（47%）と回答しており、7 つの評価項目で最も高い割合である。ベネッセコーポレーションの担当者からは、「テストスコアと自己分析評価が一致している生徒が多く、メタ認知能力の高さが示されている」と評価された。

■ 高 2

WWL1	課題発見・解決力		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	0%	5%	4%
A	33%	60%	72%
B	43%	31%	21%
C	23%	4%	4%
D	1%	0%	0%

WWL 2	創造力		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	2%	3%	5%
A	21%	40%	42%
B	48%	46%	46%
C	26%	8%	6%
D	3%	2%	1%

WWL 3	情報分析・活用力		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	5%	5%	12%
A	23%	50%	55%
B	44%	34%	28%
C	23%	8%	3%
D	4%	1%	1%

WWL 4	自己表現力		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	8%	11%	11%
A	30%	44%	44%
B	43%	40%	39%
C	17%	4%	4%
D	3%	0%	1%

WWL 5	協働性		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	10%	13%	16%
A	43%	55%	56%
B	42%	27%	25%
C	5%	4%	3%
D	0%	0%	0%

WWL 6	学ぶ意欲		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	2%	5%	5%
A	14%	27%	36%
B	52%	52%	44%
C	28%	14%	13%
D	1%	1%	2%

WWL 7	地球市民性		
高 2	1学期	2 学期	3 学期
S	5%	7%	9%
A	13%	27%	31%
B	45%	44%	41%
C	36%	20%	18%
D	0%	0%	0%

WWL 1 の「課題発見・解決力」については、高校 1 年生においても探究的な学びが進むにつれて、S や A の自己評価の割合が高くなっていったが、高校 2 年生ではさらにその傾向が顕著である。3 学期においては、76% の高校 2 年生が S (4%) や A (72%) の評価であった。また、GPS テストにおける協働的思考力の総合評価において、S (7.1%) および A (53.7%) 評価の割合が高いことが示されたが、WWL 5 の「協働性」で高い自己評価 (S と A で 72%) が見られたことと相関があると考えられる。

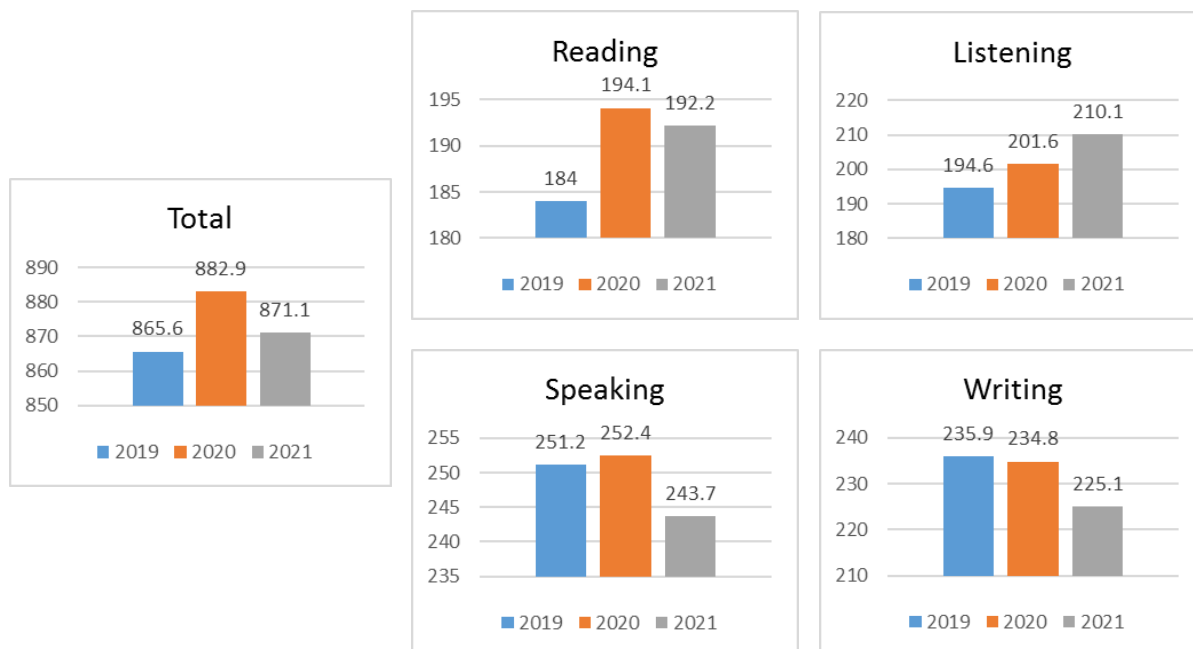
総じて、高校 1 年生、高校 2 年生ともに自己評価が 1 年間で伸長し、民間検査 (GPS) 結果での高い評価といくつかの有意な相関項目が見られたことは、WWL プログラムが有益な教育効果をもたらしたことのエビデンスであり、拠点校独自のルーブリック指標が概ね適切であったと考察する。

しかしながら、「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成を構想名に掲げていることから、次年度は特に「創造力」の伸長を図りたい。運営指導委員からも S 評価の「実現可能性」という基準によって、生徒の自由な発想が制限されている可能性があるとの指摘があり、より適切な運用ができるようルーブリックの改訂を進めたい。

【英語 4 技能に係る評価】

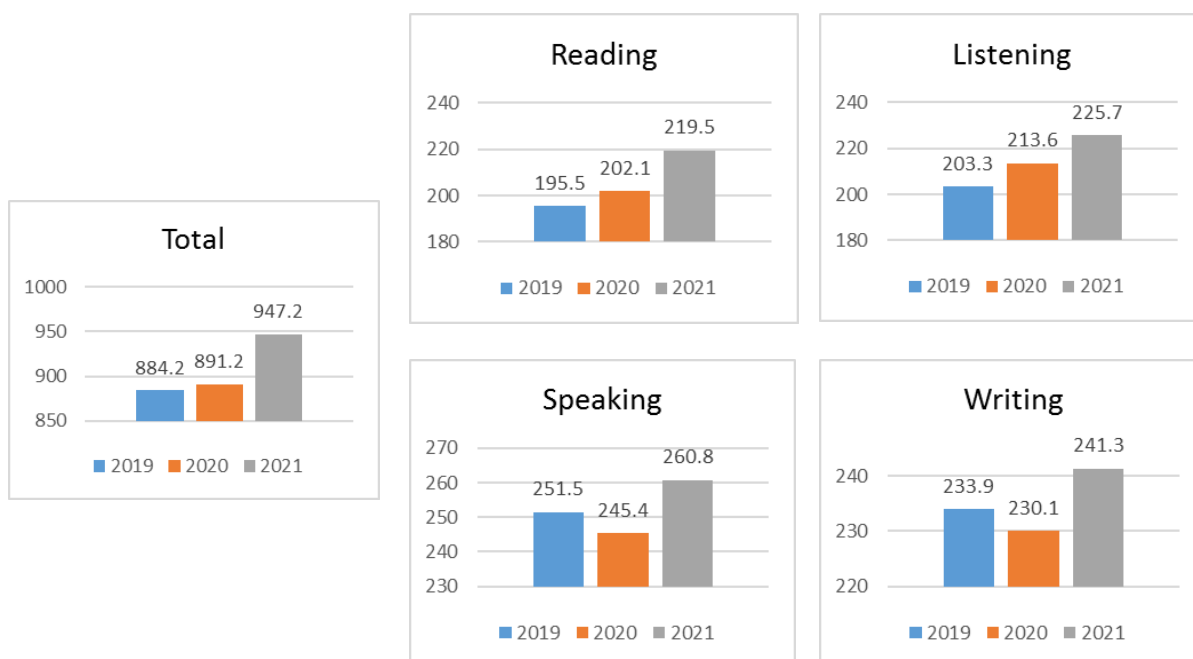
グローバル人材に求められるスキルの一部として、ベネッセコーポレーションが実施する英語 4 技能検定「GTEC」を SGH 指定時より受検している。GTEC の満点スコアが 2019 年度より変更になったため、2019 年度（SGH 5 年次）からの変容を次表に示している。

■高 1（12 月受検）



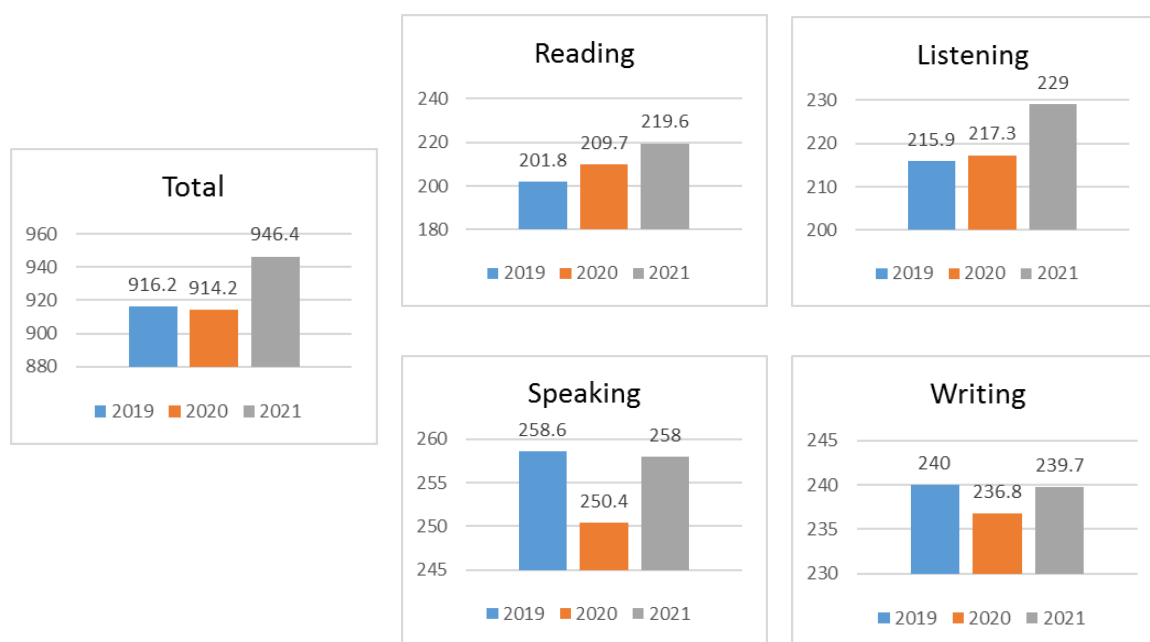
コロナ禍による分散登校や休校措置の影響もあり、昨年度よりも全体的にスコアは下がる結果となった。しかしながら、Listening は過去最高の成績であり、SGH 最終年度の 2019 年と比較しても Reading や Total スコアは大きく伸長している。

■高 2（12 月受検）



高校2年生は WWL 事業における新しい教育課程を履修した初年度生となる。4技能すべてのスキルで前2年を上回っており、文理を融合したクラス編成や4技能統合型授業による成果が現れている。もともと入学時のスキルが高かったことも考えられるが、高1次（2020）の Total スコア 882.9 から1年間で 947.2 と 64.3 ポイント伸長している。ベネッセコーポレーションによると全国的な平均の伸び幅は1年間で約 50 点とのことであるので、大きくスコアを伸ばしているといえる。

■高3（8月受検）



高校3年生は前年度12月受検（高2の2020）の Total スコア 891.2 から、8ヶ月で 946.4 に伸びている。55.2 ポイントの上昇を示しており、前述のように1年間で約 50 点のスコアアップが全国平均であるのに対し、短期間で大きく伸びていることがわかる。

CEFR	人数	%	人数	%	人数	%
B2	6	2.3	1	0.4	9	3.6
B1	60	23.3	71	27.5	97	38.6
A2	190	73.9	183	70.9	144	57.4
A1	1	0.4	3	1.2	1	0.4
B1以上	66	25.7	72	27.9	106	42.2
	R1		R2		R3	

構想計画書に記載したアウトカムは CEFR B 1 以上の割合が 70%である。目標には届いていないものの、過去2年間（25.7%、27.9%）と比較すると、42.2%と大きく上昇している。担当英語科教員3名の所感ではあるが、卒業時に英検2級程度（B 1 以上）の英語力を有する生徒は、70～80%と推察される。

英語 4 技能統合型授業に関する成果発表として、拠点校の英語科教員によるディスカッションとエッセイライティングを融合した授業実践を、県内教員を対象に 2 回（各回約 30 名参加）、大分県普通科高校教員を対象に 1 回（約 25 名参加）実施し、成果の普及に努めた。

（２）教員の変容

事業評価委員からの助言により、教員による自己評価の分析を実施した。以下は中・高教員による自己評価のうち、WWL 事業に関連する項目を抜粋した。

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和4年1月17日

令和3年度学校評価に係る職員アンケートまとめ（中高全体71名）

番号	※回答選択肢 4: 十分あてはまる 3: おおむねあてはまる 2: あまりあてはまらない 1: まったくあてはまらない	4 + 3 の過年度比較		
		R1	R2	R3
1	私の教科は、教科指導における中高の連携がとれている。	77.3	78.9	87.1
2	私は、授業でICT機器を(効果的に)活用している。	78.4	88.2	84.3
3	私は、授業改善や指導力の向上に努めている。	98.6	97.4	97.1
4	私は、授業公開・授業参観とともに年1回以上行っている。	92.0	88.2	80.0
5	「ひがし」は、学校全体として授業改善や指導力の向上に取り組んでいる。	97.6	96.1	95.8
6	「ひがし」は、高大連携の取組を推進している。	94.0	96.1	95.7
7	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	97.6	98.7	95.7
8	「ひがし」は、WWL(R1以前はSGH)の取組が充実している。	96.4	92.1	95.7
9	「ひがし」は、高校国際科の充実に努めている。	98.8	96.1	94.2
10	「ひがし」は、学校行事で生徒のリーダーシップとフォロワーシップが育まれている。	98.8	98.7	94.4
11	「ひがし」は、日頃から生徒の自主的・自律的な活動を支援している。	92.9	92.1	91.5
12	私は、校務の効率化に努めている。	90.5	94.7	93.0

WWL 事業と特に関わりが深い 6 ～ 10 の項目で 94%以上の職員が肯定的な回答を示した。4 の評価項目では低下したが、このことはコロナ禍により例年 2 回開催していた「授業改善週間」が 1 度しかできなかったことによるものと考えられる。ほぼ全ての項目で高い評価が得られており、SGH 事業を継承しつつ WWL 事業への学校組織としての取組が効果的に機能していると判断する。また、ICT を活用するなどの授業改善や中高の連携、校務のスリム化も改善されてきている。

(3) 学校評価

前項と同様に、中高保護者と生徒を対象に、学校評価に係るアンケート調査を実施した。以下 WWL 事業と関連する項目を抜粋した。

■中高保護者による「学校評価」の抜粋（表1）

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和4年1月17日

令和3年度学校評価に係る保護者アンケートまとめ【中高全体】 回答率:97.6%

番号	項 目 ※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較		
		R1	R2	R3
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	94.6	93.2	94.5
2	「ひがし」は、生徒の社会的自立を支援している。	93.3	92.7	93.9
3	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	95.7	92.6	92.3
4	私は、「立山の風」やHP、メールメイト等での「ひがし」からの情報提供に満足している。	91.8	90.2	89.8

■中高生徒による「学校評価」の抜粋（表2）

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和4年1月17日

令和3年度学校評価に係る生徒アンケートまとめ【中高全体】 回答率:93.7%

番号	項 目 ※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較		
		R1	R2	R3
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	92.4	94.5	91.4
2	私は、校外での研修(フィールドワーク、調査、講演会等)に積極的に参加している。	35.4	33.9	53.0
3	私は、海外語学研修や留学を積極的行った。	34.9	26.4	16.3
4	私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている。	47.3	45.4	57.8
5	私は環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している。	62.5	82.2	87.8
6	私はふるさとや地域社会、あるいはSDGs等の課題について考えたりすることを含め、政治や選挙に関心をもって主体的に社会参画を目指している。	54.1	71.4	81.7

表1の保護者による評価はいずれも高く、特に「国際社会で活躍できる人材の育成に努めている」の項目では、海外研修等が実施できなかった過去2年間においても90%以上の高い肯定的回答が得られ

た。WWL プログラムにおける海外とのオンライン交流や外国人院生によるオンラインでの講義、SDGs を視点にしたグローバル課題の解決に向けたカリキュラム開発が評価されていると考察する。

表 2 からは、評価指標番号 2、4、5、6 の項目で伸びが見られた。2 や 4 については、オンラインによる調査・インタビュー活動、離島を含む県内でのフィールドワーク、グローバルに活躍する外部講師との意見交換等によるものと判断する。

(4) 運営指導委員会・事業検証委員会

運営指導委員会（3 回）と事業検証委員会（2 回）を計画どおり開催した。以下、議事録を掲載する。

令和 3 年度 WWL 第 1 回運営指導委員会 議事録

1 目 的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について生徒による発表を参観し、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期 日 令和 3 年 7 月 5 日（月） 10:00～17:00

3 場 所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室
〒850-0007 長崎市立山 5-13-1 TEL 095-821-4642

4 出席者

○運営指導委員

長崎大学 副学長（地域教育連携担当）	中村 典生（欠席）
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹
株式会社小川の家 代表取締役	小川 勇人
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香
長崎県教育センター 研修部長	大川 周一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広（欠席）
---------------------	-----------

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍
------------------------	------

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉
------------------------	------

○長崎県 WWL 管理機関

長崎県教育委員会 高校教育課 参 事	馬木 みどり
同 指導主事	中村 陽介

○長崎東中学校・高等学校

校長	鶴田 栄次
高校副校長	辻 俊郎
中学校副校長	飯盛 千景

高校教頭	田中 清
WWL推進室長	鳥居 正洋
グローバル人材育成部主任（高）	一ノ瀬 憲二
グローバル人材育成部主任（中）	岡 雅子

5 日 程

- 10:00～10:30 受付
- 10:30～10:50 開会行事
- 11:05～12:30 スライド発表参観
- 13:10～14:38 スライド発表・ポスター発表参観
- 14:50～15:35 パネルディスカッション
- 15:35～15:45 講評
- 16:00～17:00 運営指導委員会
 - (1) 管理機関あいさつ
 - (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 - (3) 発表・パネルディスカッションについて
 - (4) 本年度の取組について（長崎東中学校・高等学校）
 - (5) カリキュラム・アドバイザーより
 - (6) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 - (7) 諸連絡等

6 出席者からの意見等

①本年度の取組について

- ・昨年度の運営指導委員会において、「探究学習に対して指導教員間で温度差が見られた」との指摘があった。それを踏まえ、校長のリーダーシップ（年度当初の職員会議で全職員に指導伝達）の下、5月から毎月教員研修を実施している。5月は昨年の反省で「問い立て」が不十分であったことから、「問いを深める」ことを研修テーマに設定した。6月は「研究手法」について実施した。両月とも他校へ配信し、連携校以外の高校教員も視聴した。7月と8月も継続する。
- ・運営指導委員にも高1・高2対象の講演会「探究チャンネル」や研究助言に参加していただき、SDGsの視点や研究の方向性について助言を受けるよう改善している。

②本日の発表について

- ・オンラインを利用した他校からの発表は技術的に難しい部分もあったが、生徒の刺激となり良かった。また、パネルディスカッションも探究学習と将来（仕事）への展望を結び付けた内容となり、良かった。
- ・地域創生に加わることや企業人との関わりに意義があり、コミュニケーション能力もそこで育っていくので、今後もフィールドワークを重要視してほしい。
- ・SDGsに「貢献する」という視点よりも、SDGsを「活用する」という視点の方が適切。無料サービスよりも有料の方が経済的観点から持続可能と言える。
- ・長崎東高校のサブ発表を参観したが、目指しているものが探究なのか、研究なのかあいま

いであった。指導教員が生徒の壁打ちになることが必要。OBも活用して、生徒の研究テーマを焦点化させる取組を検討してみては。

- ・パネルディスカッションにおいて、課題研究でどのような力が身についたか生徒は雄弁に語っていたが、ループリックに記載されている文言に引っ張られている印象を受けた。パネリストの生徒が語っている内容についていけない生徒も会場にいたのでは。「忍耐力がついた」というパネリストの意見もあったが、「夢中さ」や「楽しさ」というコメントがほしかった。パネルディスカッション終了後、パネリストの生徒が笑顔で楽しそうに語り合っていたが、ディスカッションの中で楽しませてやるしかけも必要。その場でメモをとらせることも重要。
- ・全体的に会場からの意見や質問が少なかった。日頃の授業でもオンラインでつながることや討論を活性化することに慣れさせてほしい。
- ・発表全般において、「今後の抱負」の部分で「実験の精度を高めたい」という内容が多かった。関連分野へ広く応用する視点を育てることも重要。
- ・ループリックのS評価は生徒が決めるようにしてみては。やりたいことや夢があって、そのためにはどのような力が必要なのかを考えさせてみては。
- ・WWLとは別に、来年5月末に長崎で100人規模の国際会議「One Young World」を準備している。長崎東高校の生徒にも参加してほしい。

令和3年度 WWL 第2回運営指導委員会 議事録

1 目 的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の上半期の取組について検証・協議し、評価および改善を図る。また、今後の実践研究の具体的方向性について協議を行う。

2 期 日 令和3年11月30日（火） 15：00～16：30

3 場 所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室

〒850-0007 長崎市立山 5-13-1 TEL 095-821-4642

4 出席者

○運営指導委員

長崎大学 副学長（地域教育連携担当）

中村 典生（欠席）

山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授

陳内 秀樹（欠席）

株式会社小川の家 代表取締役

小川 勇人

熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授

川越 明日香

長崎県教育センター 研修部長

大川 周一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授

志水 俊広（欠席）

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐

山下 龍

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表 溝田 勉（欠席）

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参 事 馬木 みどり（欠席）
同 指導主事 中村 陽介

○長崎東中学校・高等学校

校長	鶴田 栄次
高校副校長	辻 俊郎
中学校副校長	飯盛 千景
高校教頭	田中 清
WWL推進室長	鳥居 正洋
グローバル人材育成部主任（高）	一ノ瀬 憲二
グローバル人材育成部主任（中）	岡 雅子

5 日 程

15：00～16：30 運営指導委員会

- （１）管理機関あいさつ
- （２）長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- （３）本年度の取組について（長崎東中学校・高等学校）
 - ・ループリック
 - ・フィールドワーク
- （４）次年度の計画等について
 - ・国際会議に向けて
- （５）長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- （６）諸連絡等

6 出席者からの意見等

①本年度の取組について

- ・コロナ禍の状況ではあるが、３月に実施した「ハワイ平和探究」のようなオンラインによる海外との協働や、地元の外国人留学生を活用するなど、今後も工夫したい。
- ・WWL事業やその目的について、生徒はどの程度知っているか。個人の目標設定は実施しているか。
 - 高校１年生は入学直後のオリエンテーションで、年度当初に説明している。フィールドワークのために連携校の壱岐高校を訪問した際には、生徒がWWLや国際会議について壱岐高校の１年生全員にプレゼンテーションを実施した。進路指導部が主管する「キャリアパスポート」の取組によって、各学期に探究学習等で身につけるスキルやマインドセットを設定している。
- ・「探究」と「研究」のちがいを明確にするべきでは。「課題研究発表会」なのか「探究発表会」なのかあいまいでは。全員に高度な課題研究を実施させるのは難しい。仮説を立てて検証していくことが研究なのでは。レポートと論文の違いについても教えると良い。

- カリキュラム上は「総合的な探究の時間」の位置づけ。WWLの目的のひとつは「高度な課題研究」である。校内でも教員がどちらの用語を用いるべきか混乱がある。探究も仮説を立てて検証していくことが基本であり、本校でもそうしている。
- ・高校1年生と2年生の連続性はどのようになっているか。
 - 高校2年生では、文理の枠を越えた学術的な探究を目指している。

②ルーブリック・評価について

- ・WWL 7として掲げられている7つの力は、どのように切り分けているか。
 - 探究学習だけでなく、学校活動全体でそれぞれの力を伸ばそうとしている。生徒は、どのような活動によってどの力が伸びたかを自己評価している。7つの力はスクールポリシーにも用いている。
- ・ルーブリックの適正化を図るために、ピア評価や指導者評価を加えることが望ましい。それによって、実際の運用とのズレを修正（モデレーション）できる。
- ・ルーブリックの評価指標とベネッセのGPSテストの評価方法は整合性がとれないのでは。
 - 自己評価と客観評価の両方を用いることは必要なので、クロス分析やGPSテストの分野別評価も参考にしたい。
- ・ベネッセのGPSテストは、過年度との比較だけでなく、経年比較をすることが望ましい。過年度よりもスコアが上がったからといって、事業プログラムによるものなのか、もともと力がある生徒が入学してきたのか検証が難しい。
 - GPSテストは12月に高1と高2が受験するので、経年変容を検証し、第3回の運営指導委員会で報告する。

③フィールドワークについて

- ・11月に実施したフィールドワークでは、主となる調査以外の活動に「なし」としている班があるが、探究を実施する環境は整っているのに、次のステージへ進もうとしていないか、学ぶ意欲がなくなっているのでは。
 - クラスによって、入力 of 文言に差がある。全班がフィールドワークに加えて文献調査や情報の分析を校内で実施しているが、授業時間内に校外に出かけて調査をする予定がないことから「なし」と入力したと考える。

④R5年度の国際会議について

- ・高校1年生が40名程度で運営予定。
- ・オランダの協定校との交流が疎遠になっているので、カリキュラムアドバイザーより働きかけ、その後学校側から具体的に連絡をとってはどうか。
- ・オランダのダイバーシティ探究に加えて、教育・友好・幸福をテーマに加えてはどうか。
- ・オランダ研修は現実的には東京の大使館での研修を視野に。カリキュラムアドバイザーが長崎大学で実施している現代オランダ学や移民に関する講義を校内で実施することも考えては。

第1回事業評価委員会（事業評価委員へ上半期のWWL事業を報告）

1 日 時 令和3年11月8日（月）13:30～14:30

2 場 所 九州大学西新プラザ（福岡市早良区西新 2-16-23）小会議室

3 訪問者 一ノ瀬憲二 教諭 鳥居正洋 教諭

4 事業報告内容

（1）前期WWL事業の報告

- ・ハワイ平和探究プログラム（3月）
- ・長崎大学によるオンライン講座、出張講義、公開講座（5～6月）
- ・WWL長崎フォーラム（7月）
- ・Ⅰ期フィールドワーク（7～8月）
- ・教員研修（4～6月）

（2）後期WWL事業計画等の説明

- ・Ⅱ期フィールドワーク（11月）
- ・WWL課題研究発表会（3月）
- ・国際会議プレ大会（R4 7月）、国際会議（R5 7月）

5 事業評価委員からの助言、コメント

- ・国際的なプログラムがオンラインを活用してよく取り組まれている。
- ・文理を融合して様々な側面で研究を深められてよい。九州大学の共創学部での学びの方向性と一致している。学問研究への基礎的なアプローチを幅広く経験した生徒に入学してほしい。高校生による学部訪問や説明会も今後受け入れたいので検討してほしい。
- ・職員の意識についても、自己評価による変容を追跡してみてもどうか。
- ・日中（孫文と梅屋庄吉）に加えて、韓国とも友好交流できるよう将来的にプログラムを構築してはどうか。
- ・オランダの高校との交流を今後も継続してほしい。
- ・講演内容を班内で共有する活動を今後も継続してほしい。ある先生の講演を聴いた生徒と、そうでない生徒がなるべくないように。
- ・上海外国語大は九州大学も連携しているので、英語や中国語をとおした交流のお手伝いができる。
- ・後期は木曜日が空いているので、東中高でイベントがあれば参加できる（11/30の運営指導委員会は参加できない。）
- ・次年度9月～3月までスペイン（バスク）で研究をする予定であるが、R5年7月の国際会議には出席したい。

令和3年度 WWL 第3回運営指導委員会（第2回事業検証委員会を兼ねる） 議事録

- 1 目 的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。
- 2 期 日 令和4年3月23日（水） 15：00～16：30
- 3 場 所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室
〒850-0007 長崎市立山 5-13-1 TEL 095-821-4642
- 4 出席者

○運営指導委員

長崎大学 副学長（地域教育連携担当）	中村 典生（欠席）
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹（オンライン参加）
株式会社小川の家 代表取締役	小川 勇人
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香
長崎県教育センター 研修部長	大川 周一

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広
---------------------	-------

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍
------------------------	------

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉
------------------------	------

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参 事 馬木 みどり	
同 指導主事 中村 陽介	

○長崎東中学校・高等学校

校長	鶴田 栄次
高校副校長	辻 俊郎
中学校副校長	飯盛 千景
高校教頭	田中 清
WWL推進室長	鳥居 正洋
グローバル人材育成部主任（高）	一ノ瀬 憲二
グローバル人材育成部主任（中）	岡 雅子

5 内 容

- （1）管理機関あいさつ
- （2）長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- （3）本年度の取組の報告（長崎東中学校・高等学校）
- （4）事業検証
- （5）次年度の計画等について（管理機関、長崎東中学校・高等学校）
- （6）長崎東中学校・高等学校長あいさつ

(7) 諸連絡

6 出席者からの意見等

①本年度の取組について

- ・中学校の「グローバルデイ」と「イングリッシュデイ」のプログラムの差別化が伝わるように、プログラム内容の文言を修正したほうがよい。「イングリッシュデイ」は英語のスキルに特化したプログラムであり、「グローバルデイ」は英語での発表内容をとおしてグローバルな視点を涵養するものであるが、「グローバルデイ」も英語のスキルに焦点化した説明になっている。グローバル＝英語という誤った観念を伝える可能性があるので注意すべき。
- ・英語は最もグローバルに用いられている言語なので、英語での発表機会が多くあることはよいことであり、意味がある。

②課題研究発表会について

- ・ジェンダーや石けん開発といった同じ研究テーマが毎年見られるが、研究の継承を期待したい。高1と高2がコラボレーションできるような取組があるとよい。例えば、「研究構想発表会」といった簡単なものを相互に聞くことで、高1と高2が学年を越えて取り組めるきっかけにもなり、フィールドワーク先に一緒に行くことで先方の負担も減らせる。前年度の研究の記録を生徒が視聴できる機会を設けることも重要である。
- ・リサーチクエストが深まっていて、ステージ発表のプレゼンスキルも大学生より高い。
- ・ステージ発表の後、それぞれの班に質問できる「フィードバックタイム」は工夫されていたが、次のプログラムに移動する生徒と混在しないよう改善するとよい。
- ・生徒の研究テーマに関して、「問い立て」が明確になってきているものが多く良くなっている。一方で、もう一押しのものもあり先生方の働きかけを複数回増やしてみてもどうか。
- ・全員参画の多彩な内容、動画やスライド作成の見事な出来映え、ポスターセッション、「好きなこと探究」や卒論の発表までのオンパレードに感銘を受けた。同時並行の限られた時間内での各種プレゼンを全て見られた訳ではないが、段取り設定に先生方の創意工夫が垣間見られた。
- ・特に高2 普通科および国際科のステージ発表課題は、さすがに選ばれたものだけに、テーマと言い、プレゼン方法と言い、また研究調査の運び具合も随分と配慮が行き届いたものだった。2年間にわたり探究を続けた課題もあり、さらに後輩に続けてほしいと託した課題がある等の真剣さが加わっている。
- ・英語でのQAセッションに慣れれば、高校生による国際研究大会が充分こなせる。MC参加の要領を覚えることにより、あと一步の所まで達している。
- ・まずは、今年度中の発表を「完成型」で全記録を残しておくことが望まれる。閉会の辞にて田中教頭が、一方で身近な楽しいテーマによる課題研究、他方で共創の探究を強調されたがSGHからWWLの2年度にスムーズにつながれた事及び各学年がそれぞれのレベルや個性に合わせて全員参加の総合発表会に実績を積まれた功績を讃えたい。英語科を中心に教員のチームワークを評したい。

③探究学習について

- ・「探究」と「課題研究」の定義づけがあいまいなので、整理すべき。
- ・SDGsによく関連させたテーマ設定になっている。外務省や内閣府でもSDGsの定着度を測るアンケート調査への動きがある。人間の安全保障についても関心を高めておくとうい。

④変容・評価について

- ・ベネッセのGPSテストは良い結果が出ているが、今後BからA評価に上がった生徒が何%かといった個々の生徒の伸張にも着眼してみてもいい。
- ・教員の自己評価項目の多くがかなり高い数値を示しているが、年々微減しているのはWWLプログラムによる疲弊が原因なのか心配したが、コロナ禍により公開授業等ができなかったと聞いて安心した。
- ・充実したプログラムが展開されているものの、当事者である生徒やその保護者はどうとらえているか気になっていたが、非常に高く評価されていて安心した。
- ・生徒や保護者による学校評価が高いのに、入試で定員割れとなった原因は？
←大学も同様に国際教育を軸にしているところは倍率が低下している
- ・GPSの経年変化でほとんどの項目が高くなっているが、「情報に関連づける・類推する」の項目のみ下がっている原因は？
←高2では情報の授業がないが、高1で履修しているため逆転現象が起こっていると考えられる。
- ・GPSのCやD評価の生徒、教科学習でもつまずいている生徒にもスポットライトを当てて、面談を実施してほしい。生徒の特長を生かした探究活動にもつながる。
- ・ループブリックの「社会的・学問的意義」という文言で生徒のアイディアをしばりすぎではないか。「100mを10秒で走るには」など「自分ごと」から社会課題（生涯スポーツの実現）へつなげるような課題設定もあるということを伝えることも大切。

⑤国際会議に向けて

- ・国際会議に向けて取り組む「高校生平和宣言」の起草委員会をCategory 0としているが、大きな内容なのでCategory 1として扱ってもよいのでは。
- ・ニューヨーク、ロンドン、東京にそれぞれ拠点を置くOne Young World事業の進捗状況を確認中である。この事業で国際会議が東京で開催され、リレー式に長崎で約100名規模の国際会議を7月に開催予定である。長崎東の生徒もその中心的役割を担えるよう調整したい。
- ・次年度はオンラインによる定常的な国際連携プログラムの実施を増やすべき。
- ・今夏イベントとしても国際会議を行うことになれば、新年度早々に連携校との連絡を徐々に取りっていくことが望まれる。このチーム創りが大切であり、県教委との密な連絡も必要になってくる。

（５）成果の普及

SGH 指定時（H27～R 元年度）より英語 4 技能統合型授業の研究開発を実践しており、これまで毎年研究発表を実施している。本年度の研究発表は以下のとおりである。

なお、次年度は本校の一ノ瀬憲二教諭が全国英語教育学会の課題研究フォーラムにおいて、「教育活動の質的向上を目的としたスピーキング評価－指導と評価の実際」というテーマで、実践発表を行うことが決定している。

期日	講師	主催・研修会名称	内容	形態・参加数
10/28	一ノ瀬教諭	（株）ベネッセコーポレーション九州支社 「新課程を機会点に、育てたい英語力について考える会」	ディスカッションとエッセイライティングを統合した言語活動	対面（長崎市） （約 30 名）
11/26	一ノ瀬教諭	本校 「英語指導研究会」	4 技能統合型授業による成果	対面（本校） （約 30 名）
12/4	一ノ瀬教諭	九州英語教育学会 「第 49 回九州英語教育学会長崎研究大会」	スピーキング活動の評価	遠隔 （約 50 名）
1/26	一ノ瀬教諭	大分県教育委員会 「令和 3 年度第 2 回英語指導力研修会」	4 技能 5 領域の指導方法と評価方法	遠隔 （約 30 名）

WWL 事業に係る成果普及のための実践発表については、第 2 章（３）②の項で記載した。

(6) アウトプット・アウトカム

【高度な課題研究から大学進学へ】

事業協働機関である長崎大学熱帯医学研究所と経済学部において、研究者との意見交換を実施した生徒のうち2名は同大学医学部医学科へ、1名は慶應義塾大学商学部へ進学した。この意見交換では、「感染症対策と保湿効果が期待できるハンドケア製品開発に対して、薬効成分の分析結果や発展途上国への普及およびマーケティング戦略という文理を融合した視点から学びを深めることができた」との報告を生徒よりうけている。



企業との協働の様子



Limoas
hand lotion
リモアスハンドローション



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



感染症への理解を深め各種細菌に
対する抗菌作用の試験を行い感染
症予防の啓蒙を目指します。



リモアスハンドローションは商品開
発において環境に負担の少ない、
環境配慮型容器を使用しています。

長崎県立東高等学校 × すはだみらい研究所

ハンドケア用品「リモアスハンドローション」リーフレット。デザインも生徒が携わった。

課題研究等が評価されて、総合型選抜および学校推薦による大学入試の合格一覧を下に記載する。

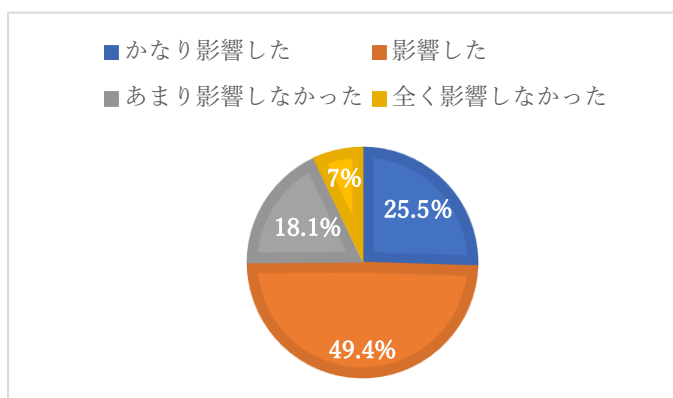
長崎大学医学部医学科（４名）
東北大学工学部電気情報物理（１名）
横浜国立大学都市科学部都市社会共生学科（１名）
大阪大学人間科学部人間科学科（１名）
熊本大学薬学部創薬・生命薬学科（１名）
東京都立大学経済経営学部経済経営学科（１名）
大阪公立大学農学部緑地環境科学科（１名）
長崎県立大学国際社会学部国際社会学科（２名）

【高３のアンケート調査】

２月に卒業を控えた高３学年生徒に対し、探究活動と進路や教科学習との関連性を踏まえたアンケートを実施した。結果は下記のとおりである。

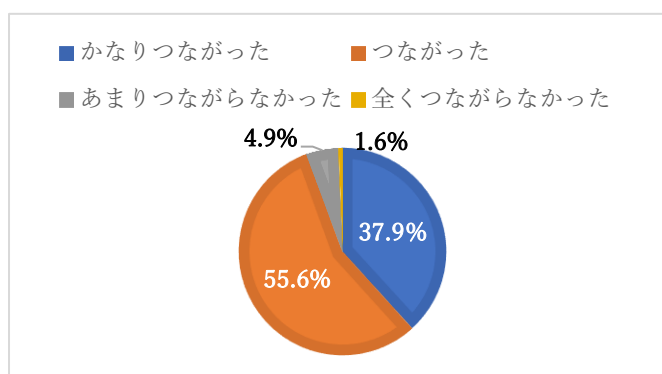
- １．探究学習（講演会やフィールドワーク、志望理由書を含む）は、自分の進路選択にどのくらい影響がありましたか。

かなり影響した	25.5%
影響した	49.4%
あまり影響しなかった	18.1%
全く影響しなかった	7.0%



- ２．探究学習（講演会やフィールドワーク、志望理由書含む）は、教科学習や一般的な学び（時事問題への関心や読書など）への意欲向上につながりましたか。

かなりつながった	37.9%
つながった	55.6%
あまりつながらなかった	4.9%
全くつながらなかった	1.6%



上記の結果について、まず１については探究学習が自身の進路選択に「かなり影響した」「影響した」と答えた生徒が合わせて74.9%と多く、進路系統を踏まえた探究学習の成果が出ていると評価で

きる。また、2については探究学習が教科等の学びに「かなりつながった」「つながった」と答えた生徒が合わせて93.5%と、実に9割以上の生徒が探究的な学びが教科学習等の学びにつながったと意識できていることが分かる。新カリキュラムを意識した探究的な学びが、生徒への意識を涵養しているものとして高く評価したい。

【主要なプログラム一覧】

期日	主催	講座・研修名、講師等	参加数
5/18	長崎東高等学校	「医学部の学び」講話（自治医科大、長崎大） 長崎東70回生 森田泰正様、岡野修人様	35名
5/22	長崎大学感染症共同研究拠点 長崎大学熱帯医学研究所	長崎大学市民公開講座「新型コロナは終わりにき戦いか？」教授 安田二郎先生	17名
7/～ 8/	公益財団法人 長崎平和推進協会	Hawaii Study Tour	2名
7/8 11/12 12/20	在福岡米国領事館 長崎県公立大学法人	外交官セミナー 講師 ジョン・C・テイラー（在福岡米国領事館 首席領事）、ユキ・近藤・シャー（在福岡米国領事館広報担当領事）	1名
7/31 8/1	立命館宇治中学校・高等学校(WWLカリキュラム開発拠点校)	第4回全国高校生SRサミット FOCUS	4名
9/17 ～19	静岡県立三島北高等学校(WWLカリキュラム開発拠点校)	2021 FALCon 高校生国際会議@ Mishima	4名
6/12 8/5～ 7 3/26	京都大学	第2回京都大学SDGsリーダー育成プログラム	3名
6/13	ウーマンズウォークラリー実行委員会	長崎ウーマンズウォークラリー	17名
10/ ～12/	国土交通省 長崎県土木部 長崎建設業協会	写真で伝える土木の魅力プロジェクト 長崎大学工学部特任研究員 出水享先生	6名
12/18	NTTドコモ中国支社	5Gソリューション Virtual Design Atelier 活用プログラム「5Gオンライン平和学習」	16名
12/18 ～19	日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会	第72回海洋教育フォーラム	4名
12/19	長崎南高等学校	SSH未来デザインフェア	6名

12/21	長崎県国際課	長崎県・上海市友好交流関係樹立 25 周年記念事業 日中青少年オンライン交流会	16 名
12/25	長崎東高等学校	卒業生が「仕事」「生き方」を本音で語る 長崎東寄付講座「きいてよ！後輩」 講師 木浦寿朗氏（本田技術研究所技術統括、44 回生）・ 北野博史氏（パナソニック株式会社、44 回生） ファシリテーター 小川勇人氏（小川の家代表取締役、 44 回生）	18 名
2/24	長崎県国際課	長崎県・上海市友好交流関係樹立 25 周年記念事業 グローバルビジネスパーソンインタビュー 講師 計暁芳氏（上海市外事弁公室アジアオセアニア 処科長）・郭麗氏（上海理工大学外国語学院日本語学 部講師）	12 名
3/3	長崎東高等学校	長崎大学外国人留学生（大学院生 7 名）による「プラ ネタリーヘルス」リモート講義	15 名
3/	長崎東高等学校	欧州派遣代替研修（在東京オランダ大使館等）	7 名
3/30 ～31	長崎東高等学校 LbE Japan	WWL ハワイ平和探究プログラム	20 名

【各種表彰】

期日	主催	大会名	入賞等
R2. 10 ～4/17	ミドルベリー国際大学院大学 ジェームズマーティン不拡散 研究センター	2021 CIF (クリティカル・イシューズ・ フォーラム)	優秀賞 外務省ユ ース非核 特使委嘱
6/22	公益社団法人ジュニア・アチー ブメント日本	FedEx Express/Junior Achievement International Trade Challenge 2021	参加
7/5	長崎県教育委員会 長崎東高等学校	WWL 長崎フォーラム	優秀賞 4
10/3 ～11	公益社団法人ジュニア・アチー ブメントジャパン	JA Travel and Tourism Business Program (TTBiz)	参加
12/19	文部科学省、筑波大学 (WWL 幹事管理機関・SGH ネットワ ーク 幹事校管理機関)	令和 3 年度全国高校生フォーラム	生徒投票 賞 (1 位)
12/19	九州大学	九州大学未来創成科学者育成プロジェク ト 世界に羽ばたく高校生の成果発表会	参加
1/30	長崎県教育委員会	令和 3 年度「ながさき未来デザイン高校	最優秀賞

		生SDG s 推進事業」アントレプレナー シップゼミ	優秀賞
2/4	長崎県教育委員会	令和3年度「ながさき未来デザイン高校 生SDG s 推進事業」長崎を元気にする アイデアコンテスト	奨励賞
2/6	NPO カタリバ	マイプロジェクトアワード	参加
2/10	静岡県立三島北高等学校 (WWL カリキュラム開発拠 点校)	静岡県高校生グローバル課題研究 ポスターセッション大会	オーディ エンス賞
2/19	山口大学大学研究推進機構 知的財産センター	第2回山口大学知財創造実践甲子園 2021	奨励賞2
3/8	「夢・化学—21」委員会主催	化学グランプリ	金賞 (県初)

【短期的、中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況】

(○実施・完了、△進行中(予定どおり)、—未実施、×未達成、※オンライン実施)

①短期的目標(令和3年度(2021)内)

指標項目	達成度・評価
①高校生が大学における高度な学びに取り組むための基盤整備	○
②拠点校がアジア・アメリカ・ヨーロッパにおいてフィールドワークを実施	※(一部)
③拠点校と県内連携校が課題研究発表会(フォーラム)を開催	○
④イノベティブな人材育成をテーマにした教員向け研究会の開催	○(6回)
⑤アジア架け橋プロジェクト等を活用した留学生の受入れ	—
①拠点校・海外フィールドワーク参加者の資質・能力の向上(民間試験を活用)	○
②拠点校・海外フィールドワーク参加者の英語力の向上(民間試験を活用) (拠点校の高3生徒70%、海外フィールドワーク参加者100%)	△(高3生 42.2%)
③拠点校の高1・2年生の20%以上が対外的なコンテスト・イベント等に参加	○高1(20%) ○高2(41%)

②中期的目標(令和5年度末(2023)まで)

指標項目	達成度・評価
①拠点校生徒が高度な学びに取り組んだ実績を大学の単位として早期認定	○
②拠点校・連携校・協働機関が海外において共同でフィールドワークを実施	×
③拠点校の毎年120名以上が修学旅行以外で海外研修等を行う多様な機会を整備	×
④拠点校と県内連携校が生徒主体で運営する高校生国際会議の開催	△
①拠点校で課題研究に取り組んだ生徒の資質・能力の向上及び進路目標の明確化	△

②拠点校において海外の大学に進学する生徒数の増加	×
③拠点校の高1・2年生の50%以上が、対外的なコンテスト・イベント等に参加	×(31%)
④対外的なコンテスト・イベント等において10グループ以上が上位に入賞	○(13)

③長期的目標（令和12年度末(2030)まで）

指標項目	達成度・評価
①生徒の実績を大学の単位として早期認定する仕組みを連携校にも拡大	○
②拠点校・連携校・協働機関による海外フィールドワークと、WEB会議等によるその事前・事後学習を体系化し、課題研究のモデルを構築	△
③拠点校・県内連携校の毎年300名以上が海外で研修等を行う多様な機会を整備	×
④高校生に加え、大学・行政・企業・NPO等が参加する高校生国際会議の定着化	△
①探究活動の成果の一部が政策提言やビジネスモデルとして社会実装される	○
②拠点校・県内連携校において毎年10名以上が海外の大学に進学	×
③令和3年度以降の拠点校、県内連携校の卒業生のうち10名以上が自らNPO、ソーシャルビジネス、グローバルビジネスを展開	×

（7）次年度の課題・計画

①海外との共同探究について

カリキュラム・アドバイザーからも指摘があったが、本校と海外連携校との共同プログラムがほとんど実施できなかった。本年度末には昨年度（株）LbE Japan と共同開発した「ハワイ平和探究プログラム」を現地学生と実施し、国際会議開催の基盤を整備する。

②高度な課題研究について

運営指導委員会でも指摘があったが、文理を融合した高いレベルの課題研究の本数を増やすことが課題である。大学や企業との連携をさらに深めるとともに、海外での実地調査に向け準備したい。また、カリキュラム開発や連携機関とのプログラムが整備されたことから、各プログラムの連動性を高める教育プログラムの研究開発を行いたい。

③国際会議、AL ネットワークに向けた取組

次年度4月に第3回生徒実行委員会を開催し、執行委員ならびに海外共同探究プログラム参加者を確定する。高校2年生の総合的な探究の時間を軸にして活動を進めていく。連携校との協働においては、実務者間によるネットワークの構築とともに、県内高校生に一人一台配布されているタブレットを活用し、Teamsを使用した代表生徒によるネットワークづくりを行いたい。国際会議の日程や内容等の連絡調整、各探究プログラムの共同活動などを生徒自身の手で行うことができるよう、全教員で支援する体制をつくっていく。海外の高校・大学との協働においても、長崎県国際課をはじめとした各機関と連携を密にしながら、ネットワークの構築を進めたい。

④リアル・オンライン双方に備えた探究活動

コロナ禍で海外フィールドワークは厳しい状況にあるが、オンラインでの代替で充実した取組となるよう努めてきた。次年度においては、一人一台のタブレット活用も踏まえオンラインの体制を充実させながら、ベトナム、ハワイ、アメリカ本土、オランダ、中国等でのフィールドワーク実施に向け準備を進めるとともに、大学や企業との連携をこれまで以上に強めていきたい。

⑤高大接続による「高度で深い学び」の推進

次年度は、今年度以上に大学の先生方の各講演を生徒が拝聴できる機会を増やし、生徒の成長に寄与したい。またオンラインで配信することで、他校への普及をさらに推進する。

⑥学校設定目標を踏まえた自己評価の改善と活用

次年度の学校設定目標を踏まえ、校内ループリックの文言をはじめとした改善を行う。生徒の自己評価を踏まえた生徒間評価や職員評価については、現在校内発表会等において実施している。校内ループリックにおいては GPS 結果と共に表示する本校独自の生徒資料を作成し、職員間で資料を共有して学力検討会や進路指導での活用を通し、生徒評価へとつなげていく。

⑦職員研修の充実化と普及

次年度の職員研修においては、今年度行った「問い立て」をはじめとする探究の実践項目に加え、各校の事例研究会の内容を盛り込み、成果普及を行いたい。今年度は公立 10 校、私立 5 校の職員計 33 名が外部より参加した。次年度も連携校に加え各高校の参加をより促し、県内探究活動の発展に寄与したい。

参考：教育課程表（中学、令和３年度入学生【普通科】【国際科】）

長崎県立長崎東中学校

教育課程表

		中学１年		中学２年		中学３年	
		年間時数	（週時数）	年間時数	（週時数）	年間時数	（週時数）
国	語	１４０	（４）	１４０	（４）	１０５	（３）
社	会	１０５	（３）	１０５	（３）	１４０	（４）
数	学	１４０	（４）	１０５	（３）	１４０	（４）
理	科	１０５	（３）	１４０	（４）	１４０	（４）
音	楽	４５	（１．３）	３５	（１）	３５	（１）
美	術	４５	（１．３）	３５	（１）	３５	（１）
保 健 体 育		１０５	（３）	１０５	（３）	１０５	（３）
技 術 ・ 家 庭		７０	（２）	７０	（２）	３５	（１）
外 国 語 （ 英 語 ）		１４０	（４）	１４０	（４）	１４０	（４）
道	徳	３５	（１）	３５	（１）	３５	（１）
その他	コミュニケーション	３５	（１）	３５	（１）	３５	（１）
の教科	数 学 探 究			３５	（１）	３５	（１）
L H R				３５	（１）	３５	（１）
総合的な学習の時間		８５	（２．４）	７０	（２）	７０	（２）
合 計		１０８５	（３１）	１０８５	（３１）	１０８５	（３１）

※令和元年度入学生、令和２年度入学生、令和３年度入学生共通の教育課程です。

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	国語総合	4	○	5			
	現代文B	4			2	3	2
	古典B	4			3	3	3
	*国語探究				※(2)		
地理 歴史	世界史A	2	○		(2)		
	世界史B	4			(3)	(4)	
	日本史A	2			(2)		
	日本史B	4	○		(3)	(4)	
	地理A	2					
	地理B	4			(2)		3
公民	現代社会	2	○	2		(3)	
	倫理	2				(3)	
	政治・経済	2					
数学	数学Ⅰ	3	○	3			
	数学Ⅱ	4		1	3	3	
	数学Ⅲ	5			(1)		5
	数学A	2		1	1		
	数学B	2			1	3	2
	*数学探究				※(2)		
理科	#科学と人間生活	2			(2)		
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4			※(2)		(4)
	化学基礎	2		2		(2)	
	化学	4			※(2)		4
	生物基礎	2			(2)	2	
	生物	4			※(2)		(4)
	地学基礎	2			(2)	(2)	
保健 体育	体育	7～8	○	3	2	2	2
	保健	2	○	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	○	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	○	3			
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			3		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4	4
	英語表現Ⅰ	2		3			
	英語表現Ⅱ	4			2	2	2
	*英語探究				※(2)		
家庭	家庭基礎	2	○	2			
	家庭総合	4					
	生活デザイン	4					
情報	社会と情報	2	○	2			
	情報の科学	2					
※国際理解				1			
	ホームルーム	3	○	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	○	1	1	1	1
履修単位合計				33	33	33	33

・*は学校設定科目。I G Rは「Integrated Global Research」の略。

・※の選択科目のうち、2科目を選択（各2単位）

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	国語総合	4	○	5			
	現代文B	4			2	2	2
	古典B	4			3	3	3
	国語探究				※(2)		
地理歴史	世界史A	2	○	(2)	★(3)	3	
	世界史B	4					
	日本史A	2		(2)	(3)		
	日本史B	4	○				
	地理A	2			★3		
	地理B	4		(2)			
公民	現代社会	2	○	★2		(3)	
	倫理	2					
	政治・経済	2					
数学	数学Ⅰ	3	○	3			
	数学Ⅱ	4		1	3	3	
	数学Ⅲ	5			(1)		5
	数学A	2		1	1		
	数学B	2			1	3	2
	数学探究				※(2)		
理科	#科学と人間生活	2			(2)	2	(4)
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4			※(1)		
	化学基礎	2		2	※(1)		
	化学	4			※(1)		
	生物基礎	2			(2)		
	生物	4			※(1)		
	地学基礎	2			(2)		
保健体育	体育	7～8	○	3	2	2	2
	保健	2	○	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	○	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
家庭	家庭基礎	2	○	2			
	家庭総合	4					
	生活デザイン	4					
情報	社会と情報	2	○	2			
	情報の科学	2					
英語	総合英語	3～15	※※	3	2		
	英語理解	2～8				2	2
	英語表現	3～10		3	2	2	2
	時事英語	2～8	※※		1		
	異文化理解	2～8				2	2
	英語探究	2～8			★※(2)		
*国際理解	*I G R			★1			
	*日本語探求					★1	
	*地歴特論					★1	
	*サイエンス特論				★※(2)		
	*中国語				★※(2)		
	ホームルーム	3	○	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	○	1	1	1	1
履修単位合計				33	33	33	33

・★は専門科目とみなす。(合計5単位以内)

・*は学校設定教科・科目。I G Rは「Integrated Global Research」の略。

・※の選択科目のうち、2科目を選択(各2単位)、ただし化学と物理/生物は合わせて2単位とする。

・※※は原則履修科目